

Arcserve® Unified Data Protection アプライアンス

Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド-W

arcserve®

組み込みのヘルプ システムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント（以下「本書」）はお客様への情報提供のみを目的としたもので、<Arcserve>により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、<Arcserve> が知的財産権を有する機密情報であり、<Arcserve> の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、<Arcserve> のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは <Arcserve> に本書の全部または一部を複製したコピーを <Arcserve> に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCSERVE は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、ARCSERVE はお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCSERVE がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は <Arcserve> です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Arcserve UDP アプライアンスでは、サードパーティ ソフトウェアに対して以下のポリシーがあります。

- 将来問題が報告された場合、弊社での調査中にサードパーティ ソフトウェアがアプライアンスの運用を何らかの方法で妨げている可能性があるとは判断された場合は、問題の根本原因を特定するためにそのソフトウェアを削除することをお客様に依頼する可能性があります。
- アンチウィルスやその他ソフトウェアによる、ファイル アクセスの一時的な妨害や、疑わしいまたは危険であると識別されたファイルの隔離または削除によって、Arcserve UDP の円滑な実行が妨げられることがあります。Arcserve UDP アプライアンス上で、ソフトウェアが Arcserve UDP の処理を妨害しないように、特定のフォルダおよびファイルをソフトウェアの対象から除外するように設定できます。

以下のフォルダおよびファイルは、スキャンから除外する必要があります。

[UDP]

C:\Program Files\Arcserve

[UDP のドライバ]

C:\Windows\System32\drivers\AFStorHBA.sys

C:\Windows\System32\drivers\ARCFlashVolDrv.sys

C:\Windows\System32\drivers\UMDF\AFStorHBATramp.dll

[データストア]

X:\Arcserve

Y:\Arcserve

[ASBU]

C:\Program Files (x86)\Arcserve

[Linux VM ディスク ファイル]

C:\Users\Public\Documents\Hyper-V\Virtual hard disks\Linux-BackupSvr.vhdx

[その他（ライセンス、ETPKI、など）]

C:\Program Files (x86)\CA

C:\Program Files\CA

Arcserve Support へのお問い合わせ

Arcserve Support チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソース セットを提供し、重要な製品情報にも容易にアクセスできます。

www.arcserve.com/support

Arcserve Support では：

- 弊社の Arcserve Support の専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース (KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、実地試験済みのソリューションを見つけることができます。
- ユーザはライブ チャット リンクを使用して、Arcserve Support チームと瞬時にリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

Arcserve UDP アプライアンスの返品ポリシー

有効な RMA（返品認定）番号は、製品を Arcserve に返却するために必要です。RMA 番号を取得するには、Arcserve テクニカル サポート部門にお問い合わせください。お客様の担当者の連絡先の情報については、arcserve.com/support を参照してください。RMA データの送信先について、サポートから情報が提供されます。

返品には、10% の返品手数料がかかります。以下の場合には例外です。1) 注文が間違っていて履行された場合、Arcserve は RMA を受け入れ、全額を返金します。2) 欠陥のあるアイテムが 30 日以内に返品された場合、Arcserve は RMA を受け入れ、全額を返金します。3) ハードウェアに技術的な問題がある場合、解決のための適切な期間を経過した後もサポートによって解決できなければ、Arcserve は RMA を受け入れ、同等の価値のあるハードウェアの交換を提供します。

RMA リクエストに必要な情報:

- 製品のシリアル番号（アプライアンスの背面に記載があります）
- Arcserve 注文番号
- パートナーの連絡先名
- パートナーの電話番号
- パートナーの電子メール アドレス
- お客様の連絡先名（可能な場合）
- 電話番号（可能な場合）
- 電子メール アドレス（可能な場合）
- 問題の説明とすでに実行されたトラブルシューティングの説明。
- 要求された配送サービスおよび出荷先住所。

RMA 番号は、パッケージの外側に明確に記されている必要があります。すべての RMA は、適切な梱包で出荷される必要があります。すべての RMA は、荷物のトラッキングおよび保証を提供する信頼できる運送業者を使用して出荷する必要があります。出荷時の破損または RMA の損失はお客様の責任になります。

目次

第 1 章: Arcserve UDP アプライアンスについて	9
概要.....	10
Arcserve UDP Agent (Linux)	12
Arcserve Backup	13
安全に関する注意事項.....	14
同梱されている内容.....	14
箱に含まれていない項目	15
利用可能なモデル	15
モデル 7100 - 7300v.....	15
モデル 7400 - 7600v.....	18
コントロールおよびインジケータ	21
前面パネル 7100-7300v.....	21
前面パネル 7400-7600v.....	24
背面パネル 7100-7300v.....	28
背面パネル 7400-7600v.....	30
アプライアンスによって使用されるポート	32
製品ドキュメント	39
 第 2 章: Arcserve UDP アプライアンスのインストール	 41
アプライアンスのインストール	41
ケーブルの接続.....	45
アプライアンスの電源投入	46
 第 3 章: Arcserve UDP アプライアンスの設定	 47
UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法	48
UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要.....	53
Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法	53
プランへのノードの追加の詳細	64
ホスト名/IP アドレスによるノードの追加.....	65
Active Directory によるノードの追加	67
vCenter/ESX ノードの追加.....	69
Hyper-V ノードの追加.....	71
NIC チーミングを設定する方法	73

第 4 章: バックアップ プランの作成	74
Linux ノード用のバックアップ プランの作成.....	75
テープ デバイスへのバックアップ プランの作成	76
アプライアンス上仮想スタンバイ プランの作成	77
 第 5 章: Arcserve UDP アプライアンスの修復	 79
ハード ドライブの取り外しおよび交換	80
 付録 A: 安全に関する注意事項	 85
一般的な安全に関する注意事項	86
電気に関する安全のための注意事項	88
FCC コンプライアンス	89
静電気放電 (ESD) に関する注意事項	90
 付録 B: IPMI パスワードの変更	 91
IPMI パスワードを変更する方法	92
 付録 C: トラブルシューティング	 97
Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない	98
UDP アプライアンスを別のアプライアンスからバックアップすると重複ノードが報告される	100
静的 IP アドレスがアプライアンス サーバに設定されている場合、Linux ネットワーク サービスを 再起動後に Linux バックアップ サーバでネットワーク DNS サフィックスを取得できない	102

第 1 章：Arcserve UDP アプライアンスについて

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要](#) (P. 10)

[安全に関する注意事項](#) (P. 14)

[同梱されている内容](#) (P. 14)

[箱に含まれていない項目](#) (P. 15)

[利用可能なモデル](#) (P. 15)

[コントロールおよびインジケータ](#) (P. 21)

[アプライアンスによって使用されるポート](#) (P. 32)

[製品ドキュメント](#) (P. 39)

概要

各 Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスは、自己完結型の「set and forget（設定後は作業不要）」のバックアップ/復旧ソリューションです。Arcserve UDP 7000 シリーズは、アシュアードリカバリ[®]を搭載した最初の完全で最もコスト効率の良い保護アプライアンスです。クラウドネイティブ機能によって構築されており、その極めて容易な導入とユーザビリティが、一連の幅広い機能（ソースベースのグローバルデデュプリケーション、マルチサイトレプリケーション、テープのサポート、自動化されたデータ復旧機能などの）と組み合わせられています。Arcserve UDP 7000 シリーズは、比類ない運用のアジリティと効率性を提供し、惨事復旧アクティビティを真に簡素化します。

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスは、最新のハードウェアにプリインストールされている主要な Arcserve Unified Data Protection ソフトウェアと完全に統合されています。アプライアンスは、すべてのユーザに対して、完全な統合データ保護ソリューションを提供し、現在の需要を満たすだけでなく、絶え間なく変化するバックアップ、アーカイブ、惨事復旧（DR）の今後の要件にも対応できます。

以下のソフトウェアは、Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスでプリインストールされます。

- Arcserve UDP
- Arcserve UDP Agent (Linux)
- Arcserve Backup

Arcserve UDP 7000 シリーズの各アプライアンスには、3年間のハードウェア保証が付いています。この保証の詳細については、arcserve.com/udp-appliance-warranty を参照してください。

Arcserve Unified Data Protection

Arcserve UDP ソフトウェアは、複雑な IT 環境を保護する包括的なソリューションです。このソリューションは、Windows、Linux、VMware ESX Server、Microsoft Hyper-V Server など、さまざまな種類のノードに存在するデータを保護します。ローカルマシンまたは復旧ポイントサーバのいずれかへデータをバックアップできます。復旧ポイントサーバは複数のソースからのバックアップが保存される中央サーバです。

Arcserve UDP には、以下の機能が用意されています。

- 復旧ポイントサーバ上のデデュプリケーション/非デデュプリケーションデータストアにデータをバックアップ
- Arcserve Backup（アプライアンスに含まれています）との統合を使用して、復旧ポイントをテープにバックアップ
- バックアップデータから仮想スタンバイマシンを作成
- バックアップデータを復旧ポイントサーバおよびリモート復旧ポイントサーバにレプリケート
- バックアップデータをリストアし、ベアメタル復旧（BMR）を実行
- 選択したデータバックアップファイルをセカンダリバックアップ先へコピー
- 環境内の重要なサーバに対して Arcserve Full System High Availability（HA）を設定および管理

Arcserve UDP は、あるサーバから別の復旧ポイントサーバに復旧ポイントとして保存されるバックアップデータをレプリケートします。バックアップデータから、ソースノードで不具合が発生したときにスタンバイマシンとして機能できる仮想マシンを作成することもできます。スタンバイ仮想マシンを作成するには、復旧ポイントを VMware ESX または Microsoft Hyper-V 仮想マシン形式に変換します。

Arcserve UDP ソリューションは、Arcserve High Availability との統合を提供します。Arcserve High Availability でシナリオを作成した後、これらのシナリオを管理およびモニタし、デステイネーションマシンの追加や削除のような操作を実行できます。

Arcserve UDP Agent (Linux)

Arcserve UDP Agent (Linux) は、Linux オペレーティング システム用に設計されたディスク ベースのバックアップ製品です。ビジネス上の重要な情報を保護および復旧する際に、高速で簡単に使用できる、信頼性の高い方法を提供します。Arcserve UDP Agent (Linux) は、ノード上の変更をブロックレベルでトラッキングし、変更されたブロックのみを増分プロセスでバックアップします。これにより、バックアップの実行頻度を増やすことができ、増分バックアップのサイズ（およびバックアップ時間）が削減されるため、これまでよりも最新のバックアップを利用できるようになります。また、Arcserve UDP Agent (Linux) を使用して、ファイルやフォルダのリストア、および単一のバックアップからのベア メタル復旧（BMR）を実行することもできます。バックアップ情報は、バックアップ ソース ノードで、NFS（Network File System）共有または CIFS（Common Internet File System）共有に保存できます。

Arcserve UDP Agent (Linux) の最新のバージョンは、アプライアンス内の仮想マシンにプリインストールされます。この仮想マシンが Linux バックアップ サーバになります。Arcserve UDP Agent (Linux) は、UDP アプライアンス内のデフォルトのインストール パスにインストールされます。

コンソールを開くと、Linux バックアップ サーバはすでにコンソールに追加されています。Linux バックアップ サーバのネイティブ ホスト名は *Linux-BackupSvr* です。ただし、コンソールでは、Linux バックアップ サーバでは、ポート 8018 環境設定を使用してアプライアンスのホスト名を適用します。Linux バックアップ サーバは、ポートの方向制御を通じて NAT の背後で動作します。Linux バックアップ サーバは、UDP アプライアンスで通信およびデータの転送にポート 8018 を使用します。

注: バックアップ プランの作成および Linux マシンのリストアに関する詳細については、「Arcserve UDP Agent for Linux ユーザ ガイド」を参照してください。

Linux バックアップ サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 - root
- パスワード - Arcserve

注: デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

Arcserve Backup

Arcserve Backup は、多種多様な環境のビジネス ニーズに対応する高性能のデータ保護ソリューションです。本製品は、柔軟なバックアップとリストア、容易な管理、幅広いデバイス互換性、そして信頼性を提供します。また、個々のストレージ要件に応じてデータ保護戦略をカスタマイズできるため、データ ストレージの機能を最大限に活用できます。さらに、柔軟なユーザ インターフェースにより詳細な設定が可能で、あらゆるユーザがその技術的知識のレベルにかかわらず、さまざまなエージェント機能や各種オプションを展開して保守できます。

Arcserve Backup は分散環境での包括的なデータ保護機能を持ち、ウイルスフリーのバックアップおよびリストア操作を実現します。多種多様なオプションとエージェントにより、企業全体でのデータ保護機能が強化され、さまざまな拡張機能（オンライン ホット バックアップや、アプリケーションおよびデータ ファイルのリストア、拡張デバイスおよびメディアの管理、惨事復旧など）が使用可能になります。

UDP アプライアンスには、テープへのバックアップを実行するために Arcserve Backup との統合が含まれています。Arcserve Backup はコンピュータ上の "C:\Program Files (x86)\Arcserve" にインストールされます。UDP アプライアンス内にインストールされるコンポーネントを使用して、Arcserve UDP のデスティネーションをテープにバックアップできます。

Arcserve Backup サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 - caroot
- パスワード - Arcserve

安全に関する注意事項

安全のため、Arcserve UDP アプライアンスに対して開梱、接続、インストール、電源オン、その他操作を行う場合は、すべての手順を事前に確認し、指示に従ってください。安全に関する注意事項に従わないと、人身傷害、機器の破損、または誤動作などが発生する可能性があります。

安全に関する注意事項の詳細については、「[安全に関する注意事項\(付録\)\(P. 85\)](#)」を参照してください。

同梱されている内容

箱には以下の項目が含まれています。

- Arcserve UDP アプライアンス（シリアル番号のラベルはアプライアンスの背面にあります）
- 電源ケーブル：1
- ネットワーク ケーブル：赤 1 本、青 1 本（3 フィートの長さ）
- IPMI ポート ケーブル：1 本（7 フィートの長さ）
- レール/ラック マウント キット - 2 つの外側レール（クイック インストール）、2 つの内側レール延長、3 つのレール アダプタ（標準のレール マウントのみ）、付属ハードウェア（必要な場合）が含まれています。
- Arcserve フェースプレート
- クイック スタート ガイド
- Microsoft クライアント アクセス ライセンス

注: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。足りない項目または破損がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください：

<https://www.arcserve.com/support>

箱に含まれていない項目

以下の項目は、箱に含まれておらず、アプライアンスの設置および設定に必要な場合があります。

- モニタ
- キーボード
- 外部ストレージ デバイス（必要な場合）

利用可能なモデル

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスは、お客様のさまざまなニーズを満たすように設計された多種多様なモデルで提供されています。

- [モデル 7100 - 7300v](#) (P. 15)
- [モデル 7400 - 7600v](#) (P. 18)

モデル 7100 - 7300v

Arcserve UDP アプライアンス モデル 7100 - 7300v

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様					
アプライアンス モデル	7100	7200	7200V	7300	7300V
バックアップストレージ容量					

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様					
アプライアンス モデル	7100	7200	7200V	7300	7300V
Raw ストレージ容量*	3 TB	6 TB	6 TB	9 TB	9 TB
使用可能なバックアップ容量**	2.8 TB	5.8 TB	5.8 TB	8.8 TB	8.8 TB
保護されている (ソース データ) 容量***	最大 8 TB	最大 17 TB	最大 17 TB	最大 26 TB	最大 26 TB
標準機能	統合管理コンソール、グローバル デデュープリケーション、ブロックレベルの無限増分バックアップ、圧縮、暗号化、WAN 最適化レプリケーション、拡張仮想化のサポート、エージェントレス バックアップ、リモート仮想スタンバイ、テープのサポート、アプリケーション整合性のあるバックアップ、詳細リストア、統合レポート、ダッシュボード。				
アプライアンスの仮想スタンバイ	N/A	N/A	最大 3 つの VM	N/A	最大 3 つの VM
保証および技術的仕様					
フル システム Depot 保証	3 年間				

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様					
アプライアンス モデル	7100	7200	7200V	7300	7300V
物理的なサイズ (H x W x D インチ)	1.7" x 17.2" x 25.6" (1U - 19" ラック マウント レールを提供)				
リモート管理およびネットワークインターフェースポート	1 x IPMI & 2 x 1 GbE (RJ45)				
ハードディスクの種類および RAID 構成	4 x 1 TB SAS (RAID 5)	4 x 2 TB SAS (RAID 5)	4 x 2 TB SAS (RAID 5)	4 x 3 TB SAS (RAID 5)	4 x 3 TB SAS (RAID 5)
外部テープバックアップ接続 (SAS、SATA、FC)	1 x PASS				
システム RAM 合計	16 GB	16 GB	32 GB	32 GB	48 GB
SSD ドライブ (デデュプリケーションハッシュテーブル用)	120 GB SSD	120 GB SSD	120 GB SSD	240 GB SSD	240 GB SSD
最大重量 (lbs)	41 lbs				
電源 (単一または冗長)	1 x 600W				
消費電力 (アイドル/ロード/スタートアップ時のワット)	93/116/143	122/164/143	125/167/145	125/167/145	129/188/152
AC 電圧および周波数範囲	100v - 240 v				
アンペア定格	最大 7.5A				

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様					
アプライアンス モデル	7100	7200	7200V	7300	7300V
*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト ** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイ VM のサイズの分だけ少なくなります。 *** 一般的な 3:1 のデデュPLICATIONおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。					

モデル 7400 - 7600v

Arcserve UDP アプライアンス モデル 7400 - 7600v

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様						
アプライアンス モデル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V
バックアップストレージ容量						
Raw ストレージ容量*	16 TB	16 TB	20 TB	20 TB	30 TB	30 TB
使用可能なバックアップ容量**	15.8 TB	15.8 TB	19.8 TB	19.8 TB	29.8 TB	29.8 TB
保護されている（ソースデータ）容量***	最大 46 TB	最大 46 TB	最大 58 TB	最大 58 TB	最大 90 TB	最大 90 TB

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様						
アプライアンス モデル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V
機能	標準					
統合管理コンソール、グローバル デデュープリケーション、ブロックレベルの無限増分バックアップ、圧縮、暗号化、WAN 最適化レプリケーション、拡張仮想化のサポート、エージェントレス バックアップ、リモート仮想スタンバイ、テープのサポート、アプリケーション整合性のあるバックアップ、詳細リストア、統合レポート、ダッシュボード。						
アプライアンスの仮想スタンバイ	N/A	最大 6 つの VM	N/A	最大 9 つの VM	N/A	最大 12 つの VM
保証および技術的仕様						
フル システム Depot 保証	3 年間					
物理的なサイズ (H x W x D インチ)	3.5" x 17.2" x 25.6" (2U - 19" ラック マウント レールを提供)					
リモート管理およびネットワーク インターフェース ポート	1 x IPMI & 2 x 1 GbE (RJ45) および 4 x 1GbE (RJ45)。2 x 10 Gb (オプション)					

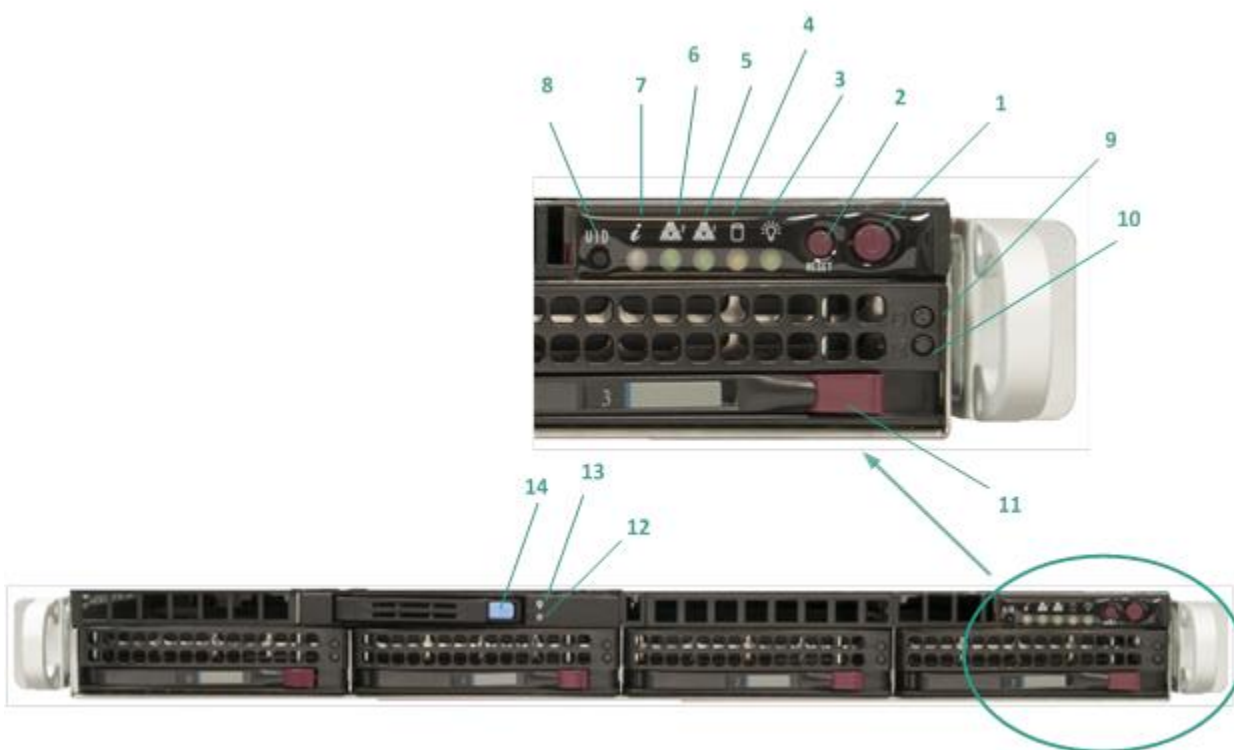
Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様						
アプライアンス モデル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V
ハードディスクの種類および RAID 構成	10 x 2 TB SAS (RAID 6)	10 x 2 TB SAS (RAID 6)	12 x 2 TB SAS (RAID 6)	12 x 2 TB SAS (RAID 6)	12 x 3 TB SAS (RAID 6)	12 x 3 TB SAS (RAID 6)
外部テープ バックアップ接続 (SAS、SATA、FC)	1 x PASS					
システム RAM 合計	64 GB	96 GB	64 GB	96 GB	128 GB	192 GB
SSD ドライブ (デデュプリケーション ハッシュテーブル用)	240 GB SSD	240 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD
最大重量 (lbs)	52 lbs					
電源 (単一または冗長)	2 x 920w					
消費電力 (アイドル/ロード/スタートアップ時のワット)	208/257/358	208/257/358	208/257/358	208/257/358	240/296/369	240/296/369
AC 電圧および周波数範囲	100 - 240v					
アンペア定格	11 アンペア (最大)					
*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト						
** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイ VM のサイズの分だけ少なくなります。						
*** 一般的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。						

コントロールおよびインジケータ

Arcserve UDP アプライアンスには、前面および背面のパネルと各ドライブキャリアにいくつかのコントロールとインジケータ（LED）が備わっています。これらのコントロールおよびインジケータによって、さまざまな機能を制御でき、アプライアンスとコンポーネントのステータスを素早く参照する機能を提供します。

前面パネル 7100-7300v

Arcserve UDP アプライアンスの前面パネルには、コントロール パネル ボタン、コントロール パネル LED、ドライブ キャリア LED が備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



番号	コントロール/インジケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンス コンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセット ボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源 LED	緑: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常この LED が点灯しています。

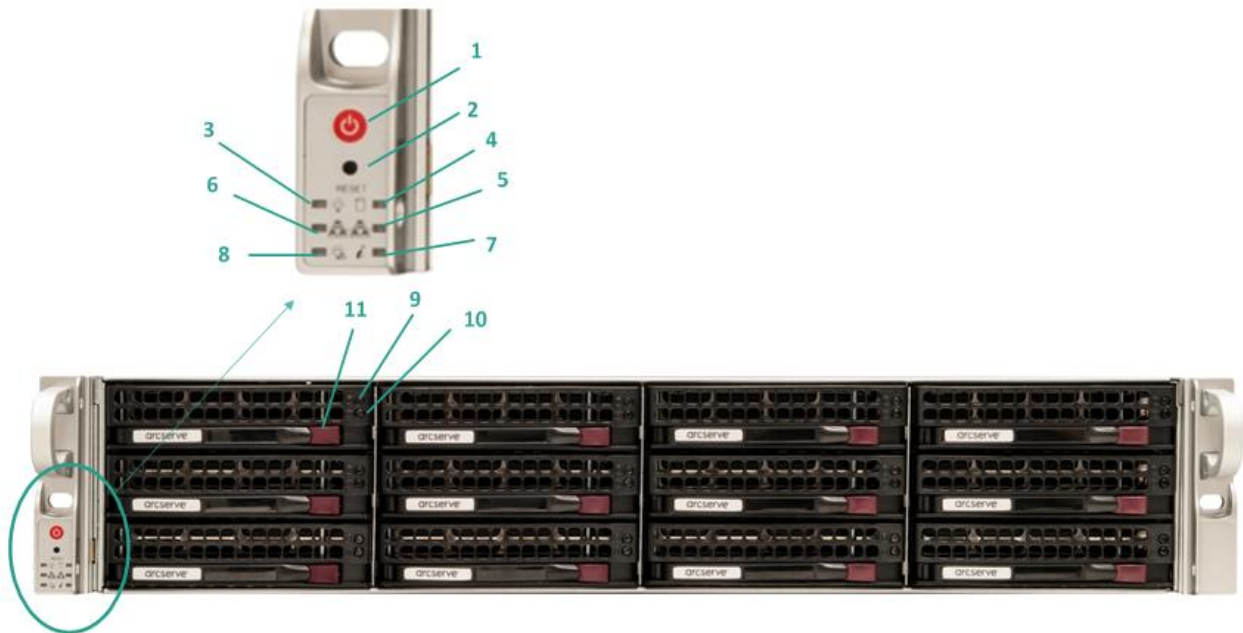
番号	コントロール/インジケータ	説明
4	デバイス アクティビティ LED	オレンジ（点滅） ：少なくとも 1 つのハード ドライブ上のアクティビティを示します。
5	ネットワーク インターフェース カード (NIC1) LED	オレンジ（点滅） ：ネットワーク 1（ETH0 ポート）上のネットワーク アクティビティを示します。
6	ネットワーク インターフェース カード (NIC2) LED	オレンジ（点滅） ：ネットワーク 2（ETH1 ポート）上のネットワーク アクティビティを示します。
7	情報 LED	赤で点灯：過熱状態が発生しました。（これはケーブル輻射が原因で発生する可能性があります。） *赤の点滅 - 高速（1 秒）：ファンの障害です。動作していないファンを確認します。 *赤の点滅 - 低速（4 秒）：電源の障害です。動作していない電源を確認してください。 青で点灯：ローカル UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。 青の点滅：リモート UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。
8	ユニット識別子 (UID) ボタン	アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報（青）をオンまたはオフにするために使用されます。 青色の LED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できます（前または後ろのいずれか）。
9	ハード ドライブ (HDD) LED	緑の点滅 ：対応するドライブ上のアクティビティを示します。

番号	コントロール/インジケータ	説明
10	ハードドライブ（HDD）LED	*赤で点灯: 対応するハードドライブの失敗を示します。 Arcserve UDP アプライアンスでは、ハードドライブの1つが失敗した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データが失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作するようにします。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
11	ハードドライブ（HDD）ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
12	ソリッドステートドライブ（SSD）LED	*赤で点灯: ドライブの障害を示します。
13	ソリッドステートドライブ（SSD）LED	緑で点灯: ドライブのアクティビティを示します。 緑の点滅: ドライブがアクセスされていることを示します。
14	ソリッドステートドライブ（SSD）ラッチ	SSD ドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、弊社サポートサイト（arcserve.com/support）までお問い合わせください。

前面パネル 7400-7600v

Arcserve UDP アプライアンスの前面パネルには、コントロール パネル ボタン、コントロール パネル LED、ドライブ キャリア LED が備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



番号	コントロール/インジケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンス コンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセット ボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源 LED	緑: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常この LED が点灯しています。
4	デバイス アクティビティ LED	オレンジ (点滅): 少なくとも 1 つのハードドライブ上のアクティビティを示します。

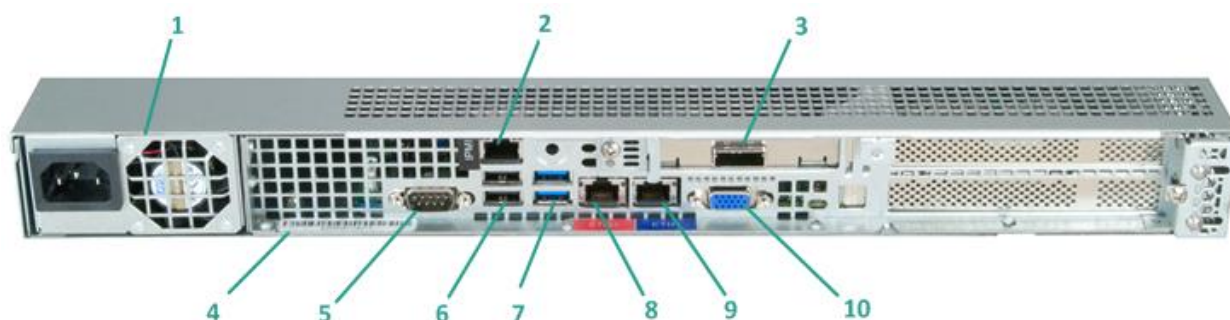
番号	コントロール/インジケータ	説明
5	ネットワーク インターフェース カード (NIC1) LED	オレンジ (点滅) : ネットワーク 1 (ETH0 ポート) 上のネットワーク アクティビティを示します。
6	ネットワーク インターフェース カード (NIC2) LED	オレンジ (点滅) : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワーク アクティビティを示します。
7	情報 LED	赤で点灯: 過熱状態が発生しました。(これはケーブル輻射が原因で発生する可能性があります。) *赤の点滅 - 高速 (1 秒) : ファンの障害です。動作していないファンを確認します。 *赤の点滅 - 低速 (4 秒) : 電源の障害です。動作していない電源を確認してください。 青で点灯: ローカル UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。 青の点滅: リモート UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。
8	電源失敗	電源モジュールが失敗したことを示します。
9	ハード ドライブ (HDD) LED	緑の点滅: 対応するドライブ上のアクティビティを示します。

番号	コントロール/インジケータ	説明
10	ハード ドライブ (HDD) LED	*赤で点灯: 対応するハード ドライブの失敗を示します。 Arcserve UDP アプライアンスでは、ハード ドライブの 1 つが失敗した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データが失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作するようにします。そのため、複数のハード ドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハード ドライブを置き換える必要があります。
11	ハード ドライブ (HDD) ラッチ	ハード ドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、弊社サポート サイト (arcserve.com/support) までお問い合わせください。

背面パネル 7100-7300v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。

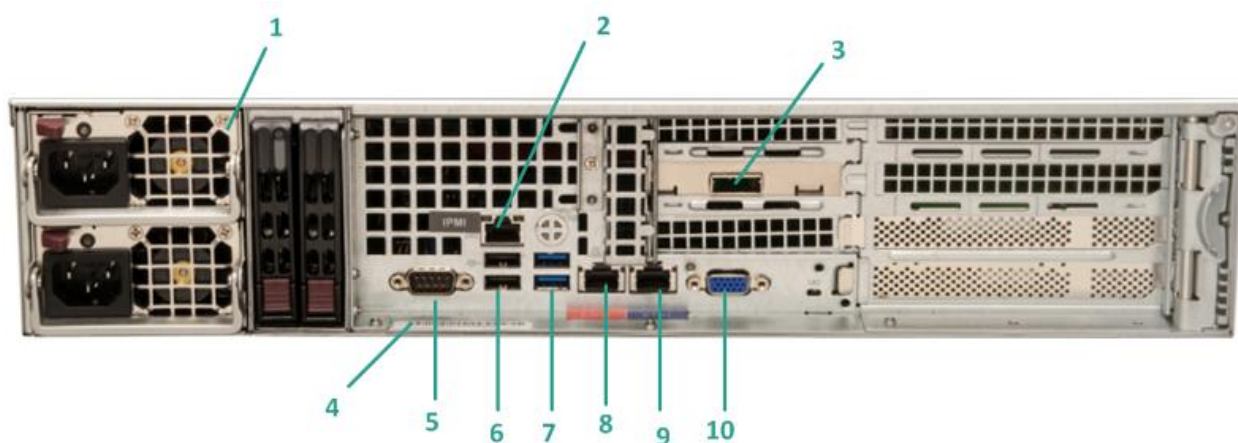


番号	コントロール/インジケータ の名前	説明
1	電源	高効率電源をアプライアンスに提供します。 注:主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用できます。このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	IPMI ポート（リモート管理）	IPMI（インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース）ポートを使用すると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態をモニタできます。 注:IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCAADMIN です（大文字と小文字が区別されます）。このパスワードはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する方法の詳細については、「IPMI パスワードを変更する方法 (P. 92)」を参照してください。

番号	コントロール/インジケータ の名前	説明
3	外部ストレージデバイスのポート (テープドライブの場合は SAS ポート)	外部ストレージデバイス (ハードドライブ、テープドライブなど) をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して 1 つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。
4	シリアル番号のラベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1 シリアル ポート	シリアルデバイス (マウスなど) をアプライアンスに接続するために使用される通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワーク データ I/O ポート 1	ネットワーク データをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク 1 の場合は ETH0)
9	ネットワーク データ I/O ポート 2	ネットワーク データをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク 2 の場合は ETH1)
10	VGA コネクタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます (必要な場合)。

背面パネル 7400-7600v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番号	コントロール/インジケータ の名前	説明
1	デュアル電源	高効率電源をアプライアンスに提供します。 注:主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用できます。デュアル電源の利点は、1つの電源が失敗しても、別の電源を使用できることです。 このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

番号	コントロール/インジケータ の名前	説明
2	IPMI ポート（リモート管理）	IPMI（インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース）ポートを使用すると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態をモニタできます。 注: IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCAADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワードはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する方法の詳細については、「IPMI パスワードを変更する方法 (P. 92)」を参照してください。
3	外部ストレージデバイスのポート (テープドライブの場合は SAS ポート)	外部ストレージデバイス（ハードドライブ、テープドライブなど）をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して 1 つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。
4	シリアル番号のラベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1 シリアル ポート	シリアルデバイス（マウスなど）をアプライアンスに接続するために使用される通信ポート。
6	USB 2.0（黒）	USB 2.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0（青）	USB 3.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワーク データ I/O ポート 1	ネットワーク データをアプライアンスから転送するために使用されます。（ネットワーク 1 の場合は ETH0）
9	ネットワーク データ I/O ポート 2	ネットワーク データをアプライアンスから転送するために使用されます。（ネットワーク 2 の場合は ETH1）
10	VGA コネクタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます（必要な場合）。

アプライアンスによって使用されるポート

以下の表では、Arcserve UDP、Arcserve Backup、Linux 用アプライアンスのサポートによって使用されるポートに関する情報を提供します。

Linux 用アプライアンスのサポート

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
8018	TCP			NAT ポートリダイレクション。アプライアンスで 8018 を Linux バックアップサーバエージェントのポート 8014 にリダイレクトします。
8019	TCP			NAT ポートリダイレクション。アプライアンスで 8019 を Linux バックアップサーバ SSH ポート 22 にリダイレクトします。

Arcserve UDP

Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
1433	TCP	リモート Java	sqlsrvr.exe	Arcserve UDP コンソールと Microsoft SQL Server データベースが異なるコンピュータに存在する場合、その間のデフォルトの通信ポートを指定します。 注: デフォルトの通信ポートは、SQL Server をインストールするときに変更できます。

ポート 番号	ポートの種 類	起動元	受信待機プロセス	説明
4090	TCP	Arcserve UDP エージェント	HATransServer.exe	プロキシ モードで仮想スタンバイ タ スクのデータを転送します。
5000 ~ 5060	TCP	Arcserve UDP サーバ	GDDServer.exe	Arcserve UDP RPS グローバル デデューブ リケーション データ ストア サービス (GDD) 用に予約されています。1 つ の Arcserve UDP GDD データ ストア は、5000 以降の 3 つの空きポートを使 用します。GDD データ ストアに対す るバックアップが有効化されている 場合、またはリストア タスクを使用し ている場合にはこれが必要です。
6052	TCP	Arcserve Backup GDB	CA.ARCserve.Com municationFoundat ion.WindowsServic e.exe	CA.ARCserve.CommunicationFoundation .WindowsService.exe Arcserve UDP コンソールと Arcserve Backup グローバル ダッシュボードプ ライマリ サーバでデータを同期する ための通信。
6054	TCP	Arcserve Backup		CA.ARCserve.CommunicationFoundation .WindowsService.exe Arcserve UDP コンソールと Arcserve Backup プライマリ サーバでデータを 同期するための通信。
8006				Arcserve UDP コンソールによって使用 される Tomcat をシャットダウンしま す。

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
8014	TCP	Arcserve UDP コンソール	Tomcat7.exe	リモート管理コンソールと Arcserve UDP サーバの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。 リモート管理コンソールと Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。 注:デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更できます。
8014	TCP	Arcserve UDP サーバ	httpd.exe	Arcserve UDP サーバと Arcserve UDP コンソールの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。 *デフォルトの共有ポートであり、Arcserve UDP サーバをレプリケーションデスティネーションとして使用する場合に開く必要のある唯一のポートを指定します。ポート 5000 ～ 5060 は、グローバル デデュプリケーションが有効化されているときにデータストアによって使用されるため開かないでください。 注:デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更できます。

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
8015	TCP	Arcserve UDP コンソール	Tomcat7.exe	リモート管理コンソールと Arcserve UDP サーバの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。 リモート管理コンソールと Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。 注:デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更できます。
8016	TCP	Arcserve UDP サーバ	Tomcat7.exe	同じサーバ上の Arcserve UDP RPS ポート共有サービスと通信する Arcserve UDP サーバ Web サービス用に予約済みです。 注:ポートはカスタマイズできません。ファイアウォール設定では無視できます。
18005			CA.ARCserve.Com municationFoundat ion.WindowsServic e.exe	Arcserve UDP サーバまたはエージェントによって使用される Tomcat をシャットダウンします。

Linux にインストールされているコンポーネント

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22	TCP	SSH サービス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。
67	UDP	Arcserve UDP Linux	bootpd	PXE ブート サーバで使用されます。PXE ブート機能の使用を必要としている場合のみ必須です。このポートは受信通信に必要です。 注: ポート番号はカスタマイズできません。
69	UDP	Arcserve UDP Linux	tffpd	PXE ブート サーバで使用されます。PXE ブート機能の使用を必要としている場合のみ必須です。このポートは受信通信に必要です。 注: ポート番号はカスタマイズできません。
8014	TCP	Arcserve UDP Linux	Java	リモート コンソールと Linux 用 Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。
18005	TCP	Arcserve UDP Linux	Java	Tomcat によって使用されます。ファイアウォールの設定では無視できます。

リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノード

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22		SSH サービス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。

* ポート共有はレプリケーション ジョブのためにサポートされています。異なるポート上のデータはすべてポート 8014（Arcserve UDP サーバ用のデフォルト ポート。インストール時に変更可能）に転送できます。WAN 上にある 2 つの復旧サーバ ポイント間でレプリケーション ジョブを実行する時には、ポート 8014 のみが開いている必要があります。

同様に、リモート レプリケーションで、割り当てられたレプリケーション プランを取得するには、リモート管理者は、ローカル復旧ポイントサーバのために、ポート 8014（データレプリケーション用）とポート 8015（Arcserve UDP コンソール用のデフォルト ポート。インストール時に変更可能）を開くか、転送する必要があります。

Arcserve Backup

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
111	TCP	CASportmapper	Catirpc.exe	Arcserve PortMapper
135	TCP			Microsoft ポート マッパー
445	TCP		名前付きパイプ上の MSRPC	
6050	TCP/UDP	CASUniversalAgent	Univagent.exe	Arcserve Universal Agent
6502	TCP	Arcserve Communication Foundation	CA.ARCserve.CommunicationFoundation.WindowsService.exe	Arcserve Communication Foundation
6502	TCP	CASTapeEngine	Tapeng.exe	Arcserve Tape Engine
6503	TCP	CASJobEngine	Jobengine.exe	Arcserve Job Engine
6504	TCP	CASDBEngine	DBEng.exe	Arcserve Database Engine
41523	TCP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service

アプライアンスによって使用されるポート

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
41524	UDP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
9000-9500	TCP		動的ポートを使用する他の Arcserve MS RPC サービス用	

製品ドキュメント

Arcserve UDP 関連のすべてのドキュメントを参照するには、このリンクをクリックして [Arcserve UDP ナレッジ センター](#) にアクセスしてください。

Arcserve UDP ナレッジ センターは、以下のドキュメントで構成されています。

- **Arcserve UDP ソリューション ガイド**

一元管理されたコンソール環境で Arcserve UDP ソリューションを使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、ソリューションをインストールおよび設定する方法、データを保護およびリストアする方法、レポートを取得する方法、Arcserve High Availability を管理する方法などの情報が含まれています。手順には、コンソールの使用を中心に、さまざまな保護プランの使用方法が含まれています。

- **Arcserve UDP リリース ノート**

Arcserve Unified Data Protection の主な機能、システム要件、既知の問題、ドキュメントの問題、制限事項などの概要が説明されています。

- **Arcserve UDP Agent for Windows ユーザ ガイド**

Windows オペレーティング システムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Windows ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

- **Arcserve UDP Agent for Linux ユーザ ガイド**

Linux オペレーティング システムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Linux ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

第 2 章: Arcserve UDP アプライアンスのインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[アプライアンスのインストール](#) (P. 41)

[ケーブルの接続](#) (P. 45)

[アプライアンスの電源投入](#) (P. 46)

アプライアンスのインストール

アプライアンスと共にレール/ラックのマウント キットが配布されます。このキットは、外側レール（クイック インストール）、内側レール延長、マウント ハードウェアを提供し、これは必要に応じてアプライアンスをラック構成に固定するために使用できます。（レール アダプタも提供されていますが、オプションの標準的なマウント レールのみで使用でき、クイック インストール レールには使用できません。）

ラック マウント キャビネットおよび付属品は、メーカーによって異なります。お使いの環境内でレールを適切に固定するための十分なラック マウント ハードウェアがあることを確認します。

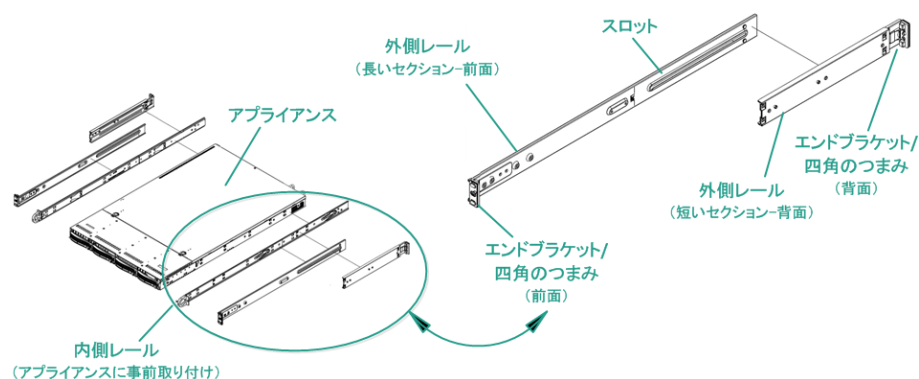
重要: このアプライアンスは、限られた場所（アクセスの許可およびデバイスのロックによる保護/制御）でのみ使用できます。

次の手順に従ってください:

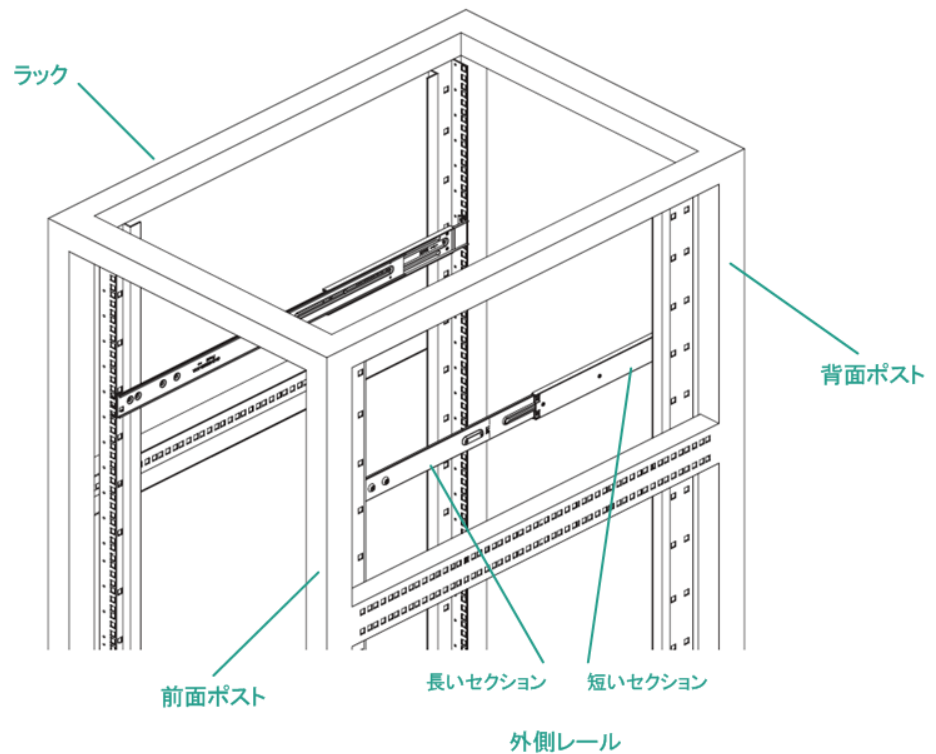
1. アプライアンスを設置する場所が湿っておらず、よく換気されていることを確認します（前面および背面に気流を塞ぐような障害物がない）。さらに、設置場所で常に一定の適切な動作温度が維持され、熱、電氣的ノイズ、電磁場が生じないことを確認します。

注: 外側レールはそれぞれ 2 つのセクションから構成されます。組み立て時には、長いセクションが前面のラック ポストに取り付けられ、短いセクションが背面のラック ポストに取り付けられます。

- 長いセクションを短いセクションに取り付け、ピンを対応するスロットの穴に合わせて、エンドブラケットが同じ方向を向いていることを確認します。



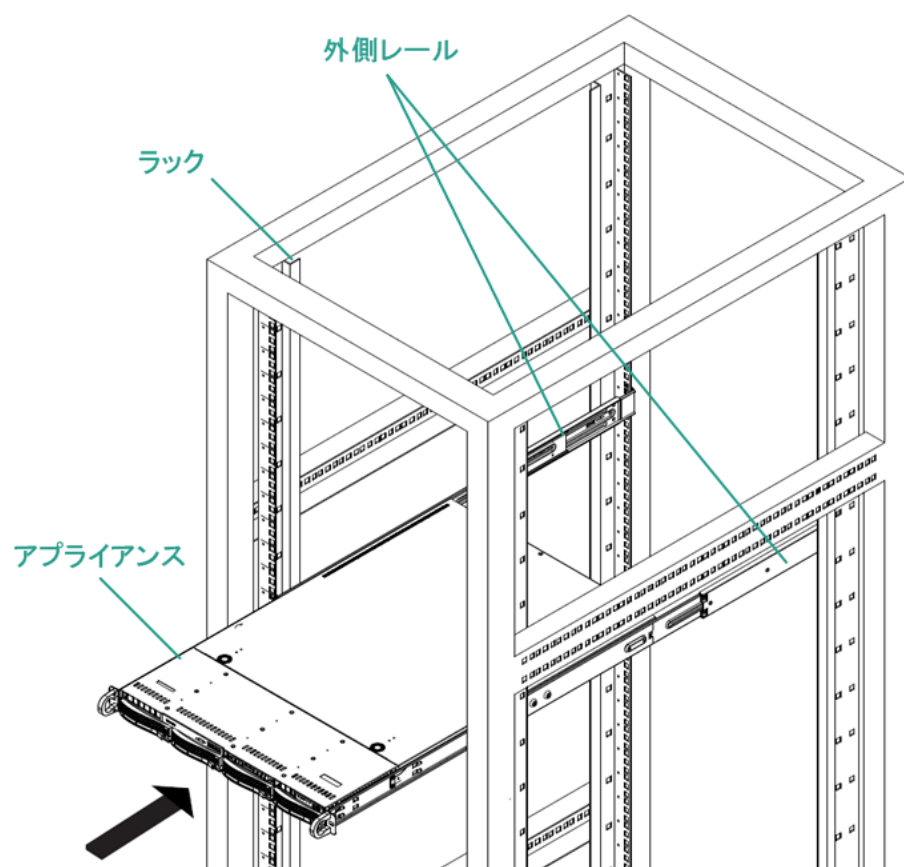
- 短いセクションをラックの背面ポストに接触するように配置し、2つの四角形のつまみが、ポストの対応する四角形の穴に合うようにします。レールが背面のポストにはまる（およびロックされる）ように圧力をかけます。



4. 組み立てられた外側レールの全体の長さを調整し、レールがラック内にぴったりと（水平に）収まるようにします。
5. 長いセクションをラックの前面ポストに接触するように配置し、2つの四角形のつまみが、ポストの対応する四角形の穴に合うようにします。レールが前面のポストにはまる（およびロックされる）ように圧力をかけます。
6. 他の外側レールに対して手順2～5を繰り返します。

注: アプライアンスの側面には内側レールがあらかじめ取り付けられています。（必要に応じて内側レールの延長も提供されています。）

7. アプライアンスを慎重に持ち上げて、内側レールの背面の端がラックにマウントされた外側レールの前面の端に合っているようにし、両方の側を適度に押しながらアプライアンスをラック内の設置場所までスライドしてロックされるようにします（カチッと音がするまでスライドします）。



ケーブルの接続

アプライアンスに電源を投入するには、提供された順序でケーブル接続手順を実行する必要があります。

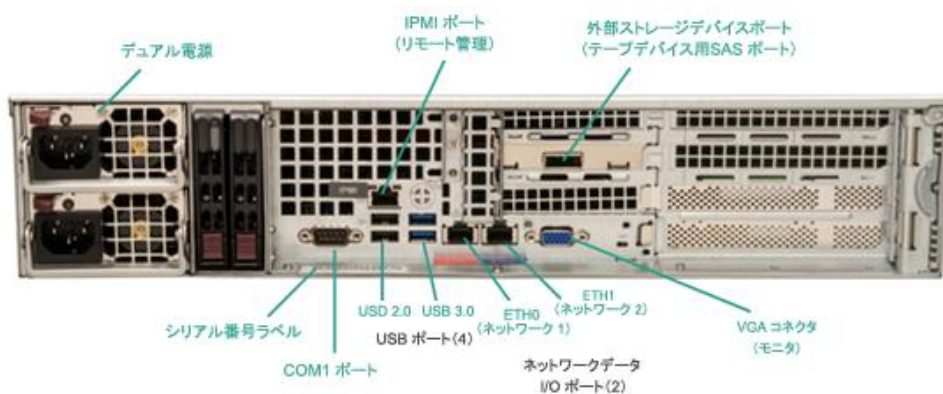
次の手順に従ってください:

1. ネットワーク ケーブル（赤または青）を対応するネットワーク データ I/O シリアル ポートに接続します。フロント パネルで、対応するネットワーク アクティビティ LED が点灯します。（ネットワーク 1 LED = ETH0 ポート。ネットワーク 2 LED = ETH1 ポート。）
2. 電源ケーブルの一端をアプライアンスの背面に接続し、もう一端を電源に接続します。
3. ケーブルをモニターとキーボードに接続します（USB ポートまたは特定のポートを接続に使用できます）。
4. 必要に応じて、専用 IPMI ポートからリモート管理スイッチにケーブルを（ネットワーク経由で）接続し、BIOS セットアップで、IP アドレスを専用ポートに割り当てすることもできます。

注:

IPMI アクセス用のデフォルトのパスワードがは **ARCADMIN** です（大文字と小文字が区別されます）。これはできるだけ早く別の値に変更してください。デフォルトのパスワードを変更する方法については、「**Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド**」を参照してください。

5. 必要に応じて、オプションの外部ストレージ デバイスからケーブルを外部ストレージ ポートに接続します。



アプライアンスの電源投入

電源 LED は、アプライアンスの電源装置に電力が供給されていることを示します。アプライアンスの稼働中は、通常この LED が点灯しています。

次の手順に従ってください:

1. 電源ボタンを押します。前面パネルで電源 LED が点灯（緑）している場合、アプライアンスに電力が供給されていることを示します。

重要: アプライアンスの電源が初めて入ると、自動的に数回再起動されることがあります。これは、初回開始の正常な動作です。



注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用できます。このボタンを使用してアプライアンスの電源をオフにした場合、主電源は切断されますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、対応する前にアプライアンスの電源コードをコンセントから抜く必要があります。

2. フェースプレートを前面パネルに設置します。（スナップおよびロック）

第 3 章：Arcserve UDP アプライアンスの設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法](#) (P. 48)

[UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要](#) (P. 53)

[Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法](#) (P. 53)

[プランへのノードの追加の詳細](#) (P. 64)

[NIC チーミングを設定する方法](#) (P. 73)

UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法

Arcserve UDP アプライアンスを管理するには、まずアプライアンスをネットワーク内に含めます。そのためには、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワーク ポートを設定する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. アプライアンスの電源をオンにした後、**Microsoft** ライセンス条項に対する設定画面が表示されます。条件を確認して、同意します。
2. UDP の **[エンド ユーザ使用許諾契約]** ダイアログ ボックスが表示されます。使用許諾契約の内容を確認して同意し、**[次へ]** をクリックします。
3. アプライアンスのホスト名を入力します。名前を割り当てると、ネットワーク上でアプライアンスを識別するのに役立ちます。

アプライアンスをネットワーク内のドメインのメンバにするには、**[この Arcserve UDP アプライアンスをドメインに追加]** オプションをクリックし、ドメイン、ユーザ名、パスワードを指定します。

注: このオプションが選択されている場合、**[ドメイン]**、**[ユーザ名]**、**[パスワード]** フィールドが表示されます。

Arcserve® へようこそ。UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定ツール

このツールを使用して、Arcserve UDP アプライアンス を LAN に接続し、Web ベースのコンソール UI でさらに環境設定を実行できるようにします。

ホスト名をアプライアンスに割り当てます。これは、お使いのローカル ネットワーク上でアプライアンスを識別するために使用されます。必要に応じて、アプライアンスをドメインに追加できます。

 新しいホスト名を反映させるには、再起動が必要です。アプライアンスを再起動する前に、[環境設定] 画面で、その他の環境を設定することができます。

ホスト名

☐ この Arcserve UDP アプライアンスをドメインに追加する

保存

注: 新しいホスト名を適用するには、アプライアンスを再起動する必要があります。アプライアンスを今すぐ再起動するか、またはネットワーク設定後に再起動するかを選択できます。

アプライアンスを再起動すると、他の任意のマシンから以下の URL を使用してアプライアンスにアクセスすることができます。

`https://<hostname>:8015`

4. [保存] をクリックします。

5. 以下のダイアログ ボックスが表示されます。

デフォルトでは、Arcserve UDP はネットワーク内のすべてのネットワーク接続を検出します。一部の接続が割り当てられていない場合は、手動で編集し、接続の詳細を指定する必要があります。



6. ネットワーク接続を編集するには、[ネットワーク接続] ボックスで [編集] をクリックします。

7. [ネットワーク接続] ダイアログ ボックスが表示されます。

イーサネット

ステータス  接続済み

説明 Microsoft Hyper-V ネットワーク アダプター

接続 ☐ DHCP を使用して IP アドレスを自動的に取得する

IP アドレス . . .

サブネット マスク . . .

デフォルト ゲートウェイ . . .

☐ DNS サーバー のアドレスを自動的に取得する

優先 DNS サーバー . . .

代替 DNS サーバー . . .

保存

キャンセル

8. IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの値を必要に応じて変更し、[保存] をクリックします。

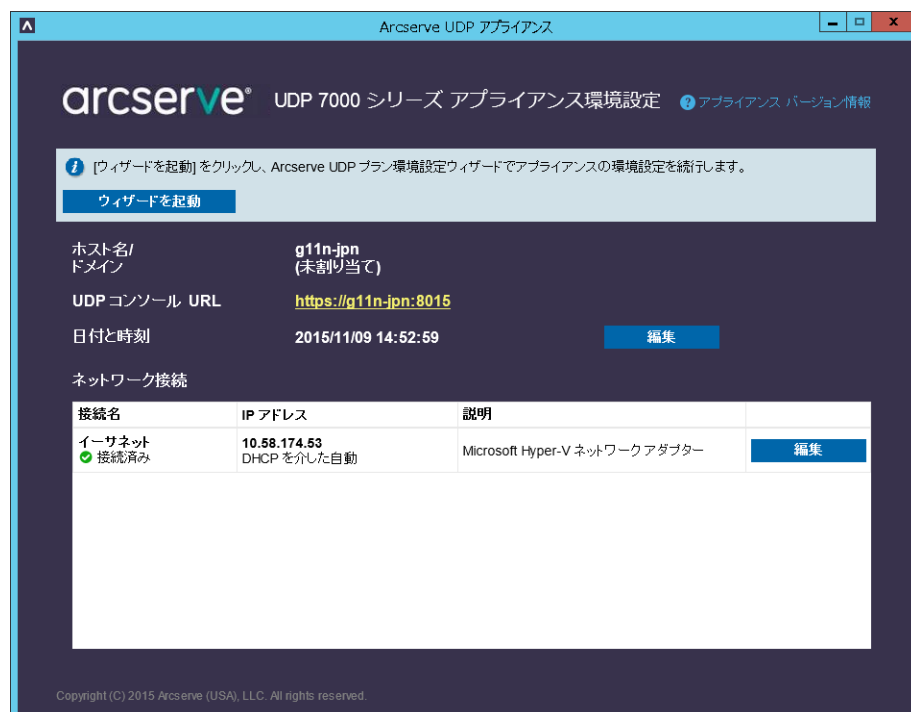
注: 必要に応じて、ホスト名、ドメイン、日付と時刻を変更することもできます。

9. 変更を適用するには、[アプライアンスの再起動] をクリックしてアプライアンスを再起動します。

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されます。

10. [ログイン] 画面が再度表示されます。ユーザ名とパスワードを入力して、**Enter** キーを押します。

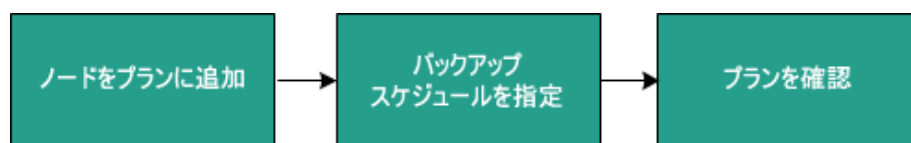
11. アプライアンスの環境設定画面が再度開いたら、[ウィザードの起動] をクリックします。



UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要

プランは、バックアップするノードおよびバックアップするタイミングを定義する手順の集合です。Arcserve UDP アプライアンスでは、基本的なプランを作成できます。UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成には、次の 3 つのステップがあります。

1. 保護するノードを追加します。Windows ノードまたは仮想マシンを vCenter/ESX または Hyper-V サーバから選択できます。
2. バックアップ スケジュールを定義します。
3. プランをチェックして確認します。



基本プランに加えて、Arcserve UDP では、UDP コンソールから複雑なプランを作成して多くのパラメータを制御することができます。UDP コンソールから複雑なプランを作成するには、「*Arcserve UDP ソリューション ガイド*」を参照してください。

Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されると、Unified Data Protection ウィザードが表示されます。ウィザードを使用して、バックアップをスケジュールするための基本プランを作成できます。プランでは、保護するノード、バックアップを作成するタイミングを定義できます。バックアップ先は、アプライアンス サーバです。

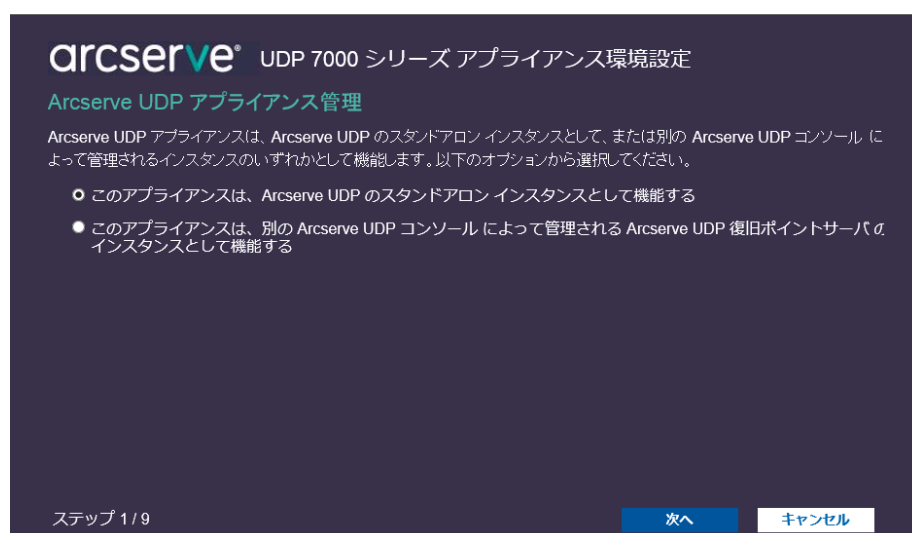
注: ウィザードのすべての手順はオプションです。これらをスキップし、直接 UDP コンソールを開いてプランを作成することもできます。



[Arcserve UDP アプライアンス ウィザードを実行する方法](#)

次の手順に従ってください:

1. Arcserve UDP コンソールにログインします。
2. Unified Data Protection ウィザードでは、**「Arcserve UDP アプライアンス管理」** ダイアログ ボックスが最初に表示されます。UDP コンソールは、スタンドアロンのインスタンスとして管理できます。または別の UDP コンソールからリモートで管理できます。リモート コンソール管理機能は、複数の UDP コンソールを管理している場合に便利です。



3. アプライアンスをローカルで管理するか（デフォルト）、別の UDP コンソールから管理するかを選択します。
- アプライアンスが別の UDP コンソールから管理されている場合、UDP コンソールの URL、ユーザ名、パスワードを指定します。
4. **「次へ」** をクリックします。

注: **「キャンセル」** をクリックすると、ウィザードをいつでもキャンセルして Arcserve UDP コンソールを開くことができます。

5. [データストア] ダイアログ ボックスが表示されます。

データストアは、アプライアンス上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用できます。

デフォルトでは、Arcserve UDP は <hostname>_data_store という名前でデータストアを作成します。このデータストアは、デデュープリケーションおよび暗号化に対応しています。デデュープリケーションおよび暗号化の詳細については、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」の「データ デデュープリケーション」を参照してください。

arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定

データストア

お使いのデータストア設定を以下に示します。Arcserve UDP コンソール からデータストアをさらに追加できます。

g11n-jpn_data_store

 合計容量 80.47 GB	圧縮	標準
	デデュープリケーション	有効
	暗号化	有効
	パスワード	•••••
	パスワードの確認	•••••

ステップ 2 / 9

前へ 次へ キャンセル

注: このデータストアは暗号化されるため、暗号化パスワードを指定する必要があります。

6. このデータストアに対する暗号化パスワードを入力し、確認します。
7. [次へ] をクリックします。

8. 「電子メールおよびアラート」ダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスでは、アラートを送信するために使用される電子メール サーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。成功したジョブ、失敗したジョブ、またはその両方に基づいてアラートを取得するオプションを選択できます。

arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定

電子メールとアラート

電子メール通知の環境および受信するアラート通知の種類を設定します。

☒ 電子メール通知を有効する

サービス: その他

電子メール サーバ: mail.xx.com

ポート: 25

■ 電子メール サービスには認証が必要

件名: Arcserve Unified Data Protection アラート

送信者: abc@xx.com

受信者: abc@xx.com

オプション

- ☐ SSL を使用
- ☐ STARTTLS の送信
- ☒ HTML 形式を使用

■ プロキシ サーバを使用して接続

プロキシ設定

テスト電子メールの送信

送信アラートの対象

- ☒ 成功したジョブ
- ☒ 失敗したジョブ

ステップ 3 / 9

前へ 次へ キャンセル

9. 以下の電子メールとアラートの詳細を指定します。

サービス

Google メール、Yahoo メール、Live メール、などの電子メール サービスを指定します。

電子メール サーバ

電子メール サーバのアドレスを指定します。たとえば、Google サーバ電子メールの場合は smtp.gmail.com を指定します。

ポート

電子メール サーバのポート番号を指定します。

認証が必要

電子メール サーバに認証が必要かどうかを指定します。認証が必要な場合は、認証用のアカウント名とパスワードを指定します。

件名

受信者に送信される電子メールの件名を指定します。

送信者

送信者の電子メール ID を指定します。受信者はこの送信者からメールを受信します。

受信者

アラートを受信する受信者を指定します。（複数の受信者がいる場合はセミコロン (;) で区切ることができます。）

オプション

通信チャンネルに使用する暗号化方式を指定します。

プロキシ サーバを使用して接続する

プロキシ サーバ経由で電子メール サーバに接続している場合は、プロキシ サーバのユーザ名とポート番号を指定します。また、プロキシ サーバで認証が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを指定します。

テスト電子メールを送信

テスト メールを受信者に送信します。テスト メールを送信することによって、詳細を確認できます。

10. [次へ] をクリックします。

11. [リモート RPS にレプリケート] ダイアログ ボックスが表示されます。

The screenshot shows a dark-themed dialog box titled "arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定" (Arcserve® UDP 7000 Series Appliance Environment Setup). Below the title is the section "リモート RPS へのレプリケーション" (Replication to Remote RPS). A note states: "リモートで管理される復旧ポイント サーバのデスティネーションにレプリケートする場合は、以下の設定を行います。" (If replicating to a recovery point server managed remotely, perform the following settings). There are two radio button options: the first is selected and reads "このアプライアンスは、リモート管理の RPS へレプリケートする" (This appliance replicates to a remotely managed RPS). Below this are three input fields: "Arcserve UDP コンソール URL" (with a white input box), "ユーザ名" (with a white input box), and "パスワード" (with a white input box). The second radio button is unselected and reads "このアプライアンスは、リモート管理の RPS へレプリケートしない" (This appliance does not replicate to a remotely managed RPS). Between the radio buttons is a checkbox labeled "プロキシ サーバを使用して接続" (Connect using proxy server) which is checked, with a blue "プロキシ設定" (Proxy Settings) button next to it. At the bottom left is "ステップ 4 / 9" (Step 4 / 9). At the bottom right are three buttons: "前へ" (Previous), "次へ" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

12. アプライアンスで、リモートで管理された復旧ポイント サーバ（RPS）にレプリケートするには、以下の詳細を指定します。リモートで管理された RPS の詳細については、「*Arcserve UDP ソリューション ガイド*」を参照してください。

Arcserve UDP コンソールの URL

リモートの Arcserve UDP コンソールの URL を指定します。

ユーザ名およびパスワード

リモート コンソールに接続するために使用されるユーザ名とパスワードを指定します。

プロキシ サーバを使用して接続する

リモート コンソールがプロキシ サーバの背後にある場合は、プロキシ サーバの詳細を指定します。

13. アプライアンスで、リモートで管理された RPS にレプリケートしないようにするには、[このアプライアンスはリモートで管理された RPS にレプリケートしません] オプションを選択します。
14. [次へ] をクリックします。

15. [プランの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスを使用して、基本プランを作成し、保護するノードおよびバックアップのスケジュールを指定できます。

The screenshot shows the 'Plan Creation' (プランの作成) dialog box in the Arcserve UDP 7000 Series Appliance Environment Setup. The title bar reads 'arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定'. The main heading is 'プランの作成' with a link 'プランの作成について'. The text explains that a protection plan is required for data protection, and nodes can be added and backup schedules set. A 'プラン作成をスキップ' (Skip Plan Creation) button is at the top left. Below it, there are input fields for 'プラン名' (Plan Name) with '保護プラン 1' (Protection Plan 1) entered, 'セッションパスワード' (Session Password), and 'パスワードの確認' (Confirm Password). A warning icon and text state: 'セッションパスワードは、データのリストアに必要なため、保持する必要があります。' (Session password is required for data restoration, so it must be kept). Below this is a 'プランへのノードの追加方法' (Method to add nodes to the plan) dropdown menu set to 'ホスト名/IP アドレス (Windows マシンのみ)' (Hostname/IP Address (Windows machines only)). At the bottom left, it says 'ステップ 5 / 9'. At the bottom right, there are three buttons: '前へ' (Previous), '次へ' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

注: ウィザードを使用して基本プランを作成しない場合は、[プランの作成をスキップ] をクリックします。これにより最後のダイアログ ボックスである [次の手順] ダイアログ ボックスが開きます。[完了] をクリックし、UDP コンソールを開いてプランを作成します。

16. プランを作成するために以下の詳細を指定します。

プラン名

プランの名前を指定します。（プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。）

セッションパスワード

セッションパスワードを指定します。セッションパスワードは、データのリストア時に必要となるため重要です。パスワードを忘れないように注意してください。

ノードをプランにどのように追加しますか？

ノードをプランに追加する方法を指定します。以下の方法から 1 つを選択します。

■ [ホスト名/IP アドレス \(P. 65\)](#)

この方法を使用する場合、ノードのホスト名または IP アドレスを指定することによりノードを手動で追加します。必要な数だけノードを追加できます。

■ [Active Directory からのノードのディスカバリ \(P. 67\)](#)

この方法は、Active Directory のノードを追加する場合に使用し、Active Directory の詳細を指定してノードのディスカバリを実行してからノードを追加します。

■ [vCenter/ESX Server からインポート \(P. 69\)](#)

この方法を使用する場合、ESX または vCenter Server から仮想マシン ノードをインポートします。このオプションでは、ここに指定したホスト名または IP アドレスで検出されたすべての仮想マシンがリスト表示されます。

■ [Hyper-V Server からインポート \(P. 71\)](#)

この方法を使用する場合、Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシン ノードをインポートします。

方法を選択したら、各ダイアログ ボックスで詳細を指定します。

17. ノードがプランに追加されたら、[次へ] をクリックします。

18. [バックアップ スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。

arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定

バックアップ スケジュール

プランのバックアップ スケジュールの基準を入力します。

インストール/アップグレードおよび再起動 金曜日 21 00

日単位の増分バックアップの実行 22 00

スケジュール サマリ (選択内容に基づく)

- 金曜日 21:00 に、Arcserve UDP エージェントの最新バージョンは、最新バージョンがすでにインストールされていないすべてのソース ノードにインストールされます。
- これらのノードは、インストール/アップグレードの完了後にすぐに再起動されます。
- Hyper-V または vCenter/ESX からインポートされたノード上では、エージェントのインストールと再起動は実行されません。
- 金曜日 22:00 に、最初のフル バックアップを実行します。
- インストール/アップグレードが完了したら、毎日 22:00 に増分バックアップが実行されます。

[プラン作成をキャンセル](#)

ステップ 7 / 9

[前へ](#) [次へ](#) [キャンセル](#)

19. 以下のスケジュールを入力します。

- **Arcserve UDP エージェントのインストールまたはアップグレードのスケジュール:** Arcserve UDP エージェントの最新バージョンは、エージェントがインストールされていないソース ノードにインストールされます。以前のエージェントのインストールは、最新のバージョンにアップグレードされます。
- **増分バックアップ スケジュール:** 初めはフル バックアップが実行され、その後は増分バックアップが実行されます。

注: インストール/アップグレード時間より前にバックアップ時間を指定すると、バックアップは自動的に次の日にスケジュールされます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の午後 9 時にスケジュールし、バックアップを午後 8 時にスケジュールした場合、バックアップは土曜日の午後 8 時に実行されます。

プランの作成をキャンセル：作成したプランをキャンセルするには、[プランの作成をキャンセル] をクリックします。

20. [次へ] をクリックします。

21. [プランの確認] ダイアログ ボックスが開きます。



22. ここで、プランの詳細を確認することができます。必要に応じて、[ノードの編集] または [スケジュールの編集] をクリックしてノードまたはスケジュールを編集するか、プランを追加または削除できます。

ノードの編集

保護するソース ノードを変更します。

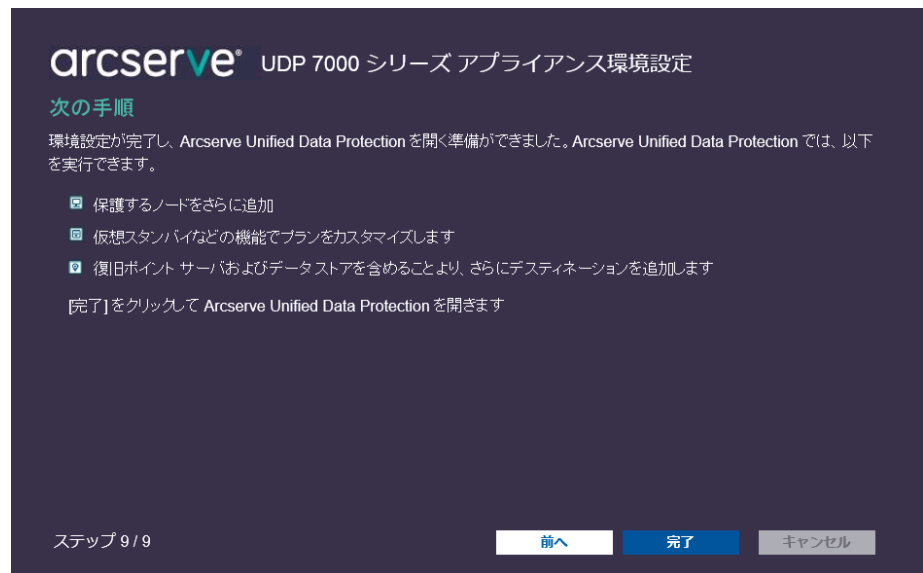
スケジュールの編集

バックアップ スケジュールを変更します。

23. プランが正しいことを確認したら、[次へ] をクリックします。

24. [次の手順] ダイアログ ボックスが表示されます。

環境設定が正常に終了し、Arcserve UDP コンソールで作業する準備が整いました。保護するノードをさらに追加し、仮想スタンバイなどの機能でプランをカスタマイズし、復旧ポイント サーバおよびデータ ストアを含めることによってデスティネーションを追加することができます。



25. [完了] をクリックしてウィザードを終了し、Arcserve UDP コンソールを開きます。

プランへのノードの追加の詳細

さまざまなノードを保護するためのプランを作成します。ノードを保護するには、まずノードをプランに追加する必要があります。UDP アプライアンス ウィザードからノードを追加できます。ウィザードでは、以下の方法を使用してノードを追加できます。

- ノードの IP アドレスまたはホスト名を手動で入力
([ホスト名/IP アドレスによるノードの追加](#) (P. 65))
- Active Directory からのノードのディスカバリ
([Active Directory によるノードの追加](#) (P. 67))
- ESX/vCenter Server から仮想マシン ノードをインポート
([vCenter/ESX ノードの追加](#) (P. 69))
- Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシン ノードをインポート
([Hyper-V ノードの追加](#) (P. 71))

ホスト名/IP アドレスによるノードの追加

ノードをプランに追加するために IP アドレスまたはホスト名を手動で入力することができます。追加するノード数が少ない場合はこの方法を使用しますが、複数のノードを 1 つずつ追加できます。Arcserve UDP Agent (Windows) はこれらのノードにインストールされます。

次の手順に従ってください:

1. [ホスト名/IP アドレスによるノードの追加] ダイアログ ボックスで、以下の詳細を入力します。

The screenshot shows the 'arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定' (Arcserve UDP 7000 Series Appliance Environment Setup) window. The title bar is 'arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定'. The main title is 'ホスト名/IP アドレスによるノードの追加' (Add Node by Host Name/IP Address). Below the title, it says '選択した Windows ノードのホスト名/IP アドレス情報を入力し、プランに追加できるようにします。' (Enter the host name/IP address information of the selected Windows node and add it to the plan so it can be added to the plan.).

On the left, there are four input fields: 'ホスト名/IP アドレス' (Host Name/IP Address), 'ユーザ名' (Username), 'パスワード' (Password), and '説明' (Description). Below these fields is a blue button labeled 'リストに追加' (Add to List). At the bottom left is a button labeled 'プラン作成をキャンセル' (Cancel Plan Creation).

On the right, there is a section titled 'プランによって保護されているノード' (Nodes Protected by Plan). It contains a checkbox labeled 'ノード名' (Node Name) and a text box with the instruction '左のフィールドを使用してノードをプランに追加します。' (Use the fields on the left to add the node to the plan.). Below this is a blue button labeled '削除' (Delete).

At the bottom of the window, it says 'ステップ 6 / 9' (Step 6 / 9). There are three buttons: '前へ' (Previous), '次へ' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

ホスト名/IP アドレス

ソース ノードのホスト名または IP アドレスを指定します。

ユーザ名

管理者権限を持つノードのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザ パスワードを指定します。

説明

ノードを特定する説明を指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. **［リストに追加］** をクリックします。

ノードが右ペインに追加されます。さらにノードを追加するには、これらの手順を繰り返します。追加されたすべてのノードは、右ペインにリスト表示されます。

3. (オプション)追加したノードを右ペインのリストから削除するには、目的のノードを選択して **［削除］** をクリックします。
4. **［次へ］** をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

Active Directory によるノードの追加

Active Directory のノードを追加するには、まず Active Directory の詳細を指定してノードのディスカバリを実行してから、ノードをプランに追加します。

次の手順に従ってください:

1. [Active Directory によるノードの追加] ダイアログ ボックスで、以下の詳細を入力します。

ユーザ名

<ドメイン>\<ユーザ名> の形式でドメインおよびユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザ パスワードを指定します。

コンピュータ名フィルタ

ノード名のディスカバリに使用するフィルタを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. [参照] をクリックします。

検出されたノードが表示されます。

ノードを追加するには、ノードを選択して検証する必要があります。

3. 検証するには、ノードを選択し、ユーザ名およびパスワードを入力して [適用] をクリックします。

認証情報が検証されました。検証済みノードには、緑色のチェックマークが付いています。ノードの検証が失敗した場合、認証情報を再入力して [適用] を再度クリックします。

注: ノードをリストに追加する前に各ノードを検証する必要があります。

4. [リストに追加] をクリックします。

選択したノードが右ペインに追加されます。

5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して [削除] をクリックします。

6. [次へ] をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

vCenter/ESX ノードの追加

仮想マシン ノードを VMware vCenter/ESX Server に追加できます。これらのノードを追加するには、vCenter/ESX Server からのノードを検出およびインポートする必要があります。

次の手順に従ってください：

1. [vCenter/ESX によるノードの追加] ダイアログ ボックスで、以下の vCenter/ESX Server の詳細を指定し、[接続] をクリックします。

The screenshot shows the 'arcserve® UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定' (Arcserve UDP 7000 Series Appliance Environment Setup) window. The title bar is 'VCenter/ESX によるノードの追加' (Adding nodes via vCenter/ESX). The main content area has a heading 'VCenter/ESX によるノードの追加' and a sub-heading 'ノードをプランに追加するための vCenter/ESX 情報を入力します。' (Enter vCenter/ESX information to add nodes to the plan). Below this are input fields for 'ホスト名/IP アドレス' (Host name/IP address), 'ポート' (Port) with the value '443', 'プロトコル' (Protocol) with a dropdown menu showing 'HTTPS', 'ユーザ名' (Username) with the value 'root', and 'パスワード' (Password). A '接続' (Connect) button is at the bottom right of the input fields. To the right of the input fields is a panel titled 'プランによって保護されているノード' (Nodes protected by the plan). It contains a checkbox labeled 'ノード名' (Node name) and a text box with the instruction '左のフィールドを使用してノードをプランに追加します。' (Use the fields on the left to add nodes to the plan). A '削除' (Delete) button is at the bottom right of this panel. At the bottom left of the main window is a button labeled 'プラン作成をキャンセル' (Cancel plan creation). At the bottom right are three buttons: '前へ' (Previous), '次へ' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The bottom left corner of the window shows 'ステップ 6 / 9' (Step 6 / 9).

ホスト名/IP アドレス

vCenter/ESX Server のホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート

使用するポート番号を指定します。

プロトコル

使用するプロトコルを指定します。

ユーザ名

サーバのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザ パスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. 検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。



3. 追加するノードを選択してから、[リストに追加] をクリックします。
選択したノードが右ペインに追加されます。
4. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して[削除]をクリックします。
5. [次へ]をクリックします。
ノードがプランに追加されます。

Hyper-V ノードの追加

この方法を使用すると、Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシン ノードをインポートできます。

次の手順に従ってください：

1. 「**Hyper-V ノードの追加**」ダイアログ ボックスで以下の詳細を指定します。

ホスト名/IP アドレス

Hyper-V サーバの名前または IP アドレスを指定します。Hyper-V クラスタに含まれている仮想マシンをインポートするには、クラスタ ノード名または Hyper-V ホスト名のいずれかを指定します。

ユーザ名

管理者権限のある Hyper-V ユーザ名を指定します。

注: Hyper-V クラスタの場合は、クラスタの管理者権限を持つドメイン アカウントを使用します。スタンドアロン Hyper-V ホストの場合は、ドメイン アカウントを使用することをお勧めします。

パスワード

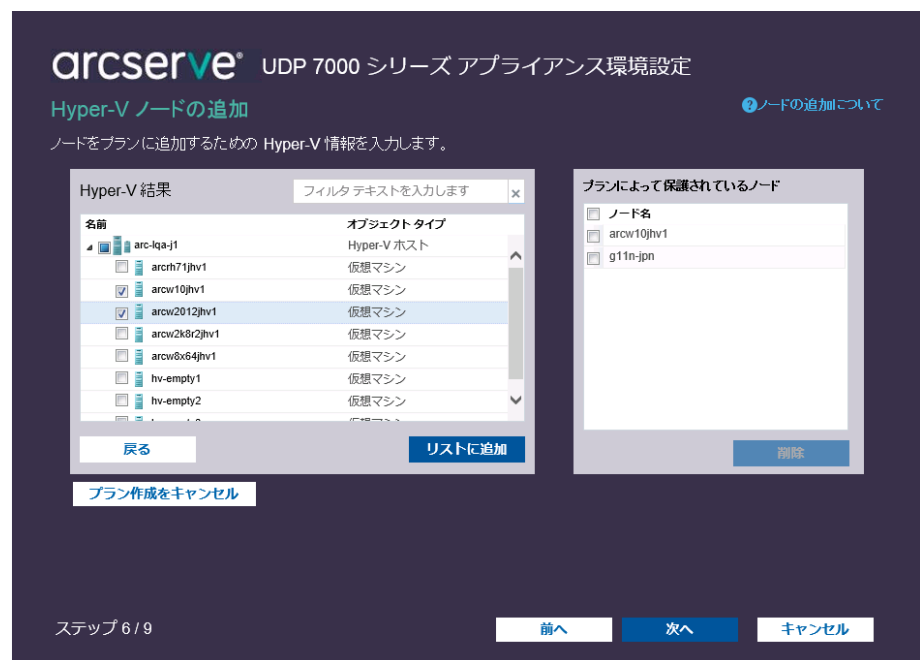
ユーザ名のパスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. [接続] をクリックします。

検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。



3. (オプション) [フィルタ] フィールドにノード名を入力して、ツリー内のノードを検索できます。
4. ノードを選択してから、[リストに追加] をクリックします。
選択したノードが右ペインに追加されます。
5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して [削除] をクリックします。
6. [次へ] をクリックします。
ノードがプランに追加されます。

NIC チーミングを設定する方法

Arcserve UDP アプライアンスには、イーサネット ポートが標準で備わっています。これらのポートを使用するには、イーサネット **NIC チーミング** を設定できます。**NIC チーミング**では、複数のネットワーク アダプタをチームにまとめることにより、帯域幅およびトラフィックのフェールオーバーを集約し、ネットワーク コンポーネントに障害が発生した場合に接続を維持することができます。

使用可能な **NIC チーム**を設定するには、リンクの集約をサポートするネットワーク スイッチが必要です。ネットワーク スイッチのベンダおよび **Microsoft Windows** の構成ドキュメントを参照し、**NIC チーム**を適切に設定してください。

ネットワーク スイッチを設定したら、以下の手順に従って、Arcserve UDP アプライアンスで **NIC チーム**を使用できるようにします。

1. **Windows** デスクトップで、Arcserve UDP アプライアンス ウィザードを起動します。

注: DHCP または静的 IP アドレスを使用している場合、[ネットワーク接続] 画面で **NIC チーム**の IP アドレスを設定できます。有効な IP アドレスが **NIC チーム**に割り当てられており、ネットワーク上で利用可能であることを確認します。

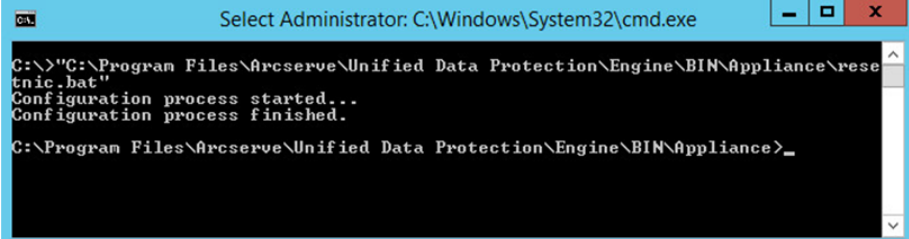
接続名	IP アドレス	説明	
イーサネット ● 接続済み	10.58.174.53 DHCP を介した自動	Microsoft Hyper-V ネットワーク アダプター	編集

2. サーバ マネージャで、[ツール] - [ルーティングとリモート アクセス] を選択します。[ルーティングとリモート アクセス] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. アプライアンス サーバのノードを右クリックし、[ルーティングとリモート アクセスの無効化] を選択します。

注:他のルーティングとリモート アクセス機能が別の目的で設定されている場合は、これらの手順の完了後に再度設定することをお勧めします。

4. 確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックし、ルータを無効にして設定を削除します。
5. アプライアンス サーバのノードを右クリックし、[ルーティングとリモート アクセスの構成と有効化] を選択します。
[ルーティングとリモート アクセス サーバーのセットアップ ウィザード] が表示されます。
6. [キャンセル] をクリックし、Windows コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
7. 以下のコマンドを実行します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat
設定が完了し、以下のメッセージが表示されます。



```
Select Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe

C:\>"C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat"
Configuration process started...
Configuration process finished.

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>
```

正しく機能していることを確認するには、Hyper-V マネージャで Linux バックアップサーバにログインし、イントラネット上の特定のコンピュータに対して IP アドレスを ping します。失敗した場合は、確認し、この手順を繰り返します。

第 4 章: バックアッププランの作成

UDP アプライアンスを使用して、Windows、Linux、および仮想マシン用のバックアッププランを作成できます。テープ デバイスにデータを書き込み、仮想スタンバイ マシンを作成することもできます。

Linux ノード用のバックアッププランの作成

アプライアンス コンソールから Linux ノードをバックアップできます。
Linux バックアップ サーバはすでにコンソールに追加されています。

次の手順に従ってください:

1. アプライアンス コンソールを開きます。
2. [リソース] - [プラン] - [すべてのプラン] をクリックします。
3. Linux バックアッププランを作成します。
4. [ソース]、[デステイネーション]、[スケジュール]、[拡張] の設定を指定します。

注: 各環境設定の詳細については、
「ソリューション ガイド」の「Linux バックアッププランを作成する
方法」を参照してください。

5. バックアッププランを実行します。

テープ デバイスへのバックアッププランの作成

UDP アプライアンスには、テープ デバイスにデータを書き込む機能があります。通常、ソースデータは、UDP バックアッププランを使用してデータストアに保存されている復旧ポイントで、デスティネーションはテープ デバイスです。Arcserve Backup マネージャを使用して、テープへのバックアップジョブを管理する必要があります。

以下のプロセスの概要は、UDP アプライアンスを使用してテープ デバイスに書き込む方法を理解するのに役立ちます。

1. **テープ デバイスを UDP アプライアンスに接続します。**

UDP アプライアンスには、テープ デバイスを接続するためのポートが背面パネルに備わっています。テープ デバイスを接続すると、UDP アプライアンスは自動的にテープ デバイスを識別します。

2. **バックアップ マネージャを使用して、テープ デバイスを設定します。**

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加します。バックアップ マネージャは、Arcserve Backup を管理するためのインターフェースです。テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加した後、デバイスを設定します。

注: デバイスの設定および管理の詳細については、「Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド」の「デバイスおよびメディアの管理」を参照してください。

3. **UDP コンソールを使用して、1 つ以上のバックアップジョブを正常に完了します。**

テープ デバイスに書き込み可能な正常なバックアップが少なくとも 1 つ存在している必要があります。データをバックアップするには、UDP コンソールを使用してプランを作成し、データストアにバックアップします。

注: 別のノード用のバックアッププランの作成に関する詳細については、「ソリューション ガイド」の「データを保護するプランの作成」を参照してください。

4. **バックアップ マネージャからのテープへのバックアップジョブの開始**

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスにデータをバックアップするプランを作成します。ソース データは UDP バックアップ プランのデスティネーションで、デスティネーションはテープ デバイスです。

注: テープへのバックアップ プランの作成に関する詳細については、「Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド」の「D2D/UDP データのバックアップおよび回復」を参照してください。

アプライアンス上仮想スタンバイプランの作成

アプライアンスには、仮想スタンバイ マシンとして動作する機能があります。この機能は、以下アプライアンス シリーズに備わっています。

- Arcserve UDP アプライアンス 7200V
- Arcserve UDP アプライアンス 7300V
- Arcserve UDP アプライアンス 7400V
- Arcserve UDP アプライアンス 7500V
- Arcserve UDP アプライアンス 7600V

前提条件: バックアップ プランが正
常に実行されている必要があります。

次の手順に従ってください:

1. アプライアンス コンソールを開きます。
2. プランに移動して、バックアップ プランを変更します。
3. 仮想スタンバイ タスクを追加します。
4. ソース、デスティネーション、仮想マシンの環境設定を更新します。

注: それぞれの環境設定の詳細については、「ソリューション ガイド」の「仮想スタンバイプランを作成する方法」を参照してください。

5. プランを保存して実行します。

第 5 章：Arcserve UDP アプライアンスの修復

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ハードドライブの取り外しおよび交換](#) (P. 80)

ハードドライブの取り外しおよび交換

Arcserve UDP アプライアンスでは、ハードドライブの 1 つが失敗した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データが失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作するようにします。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。

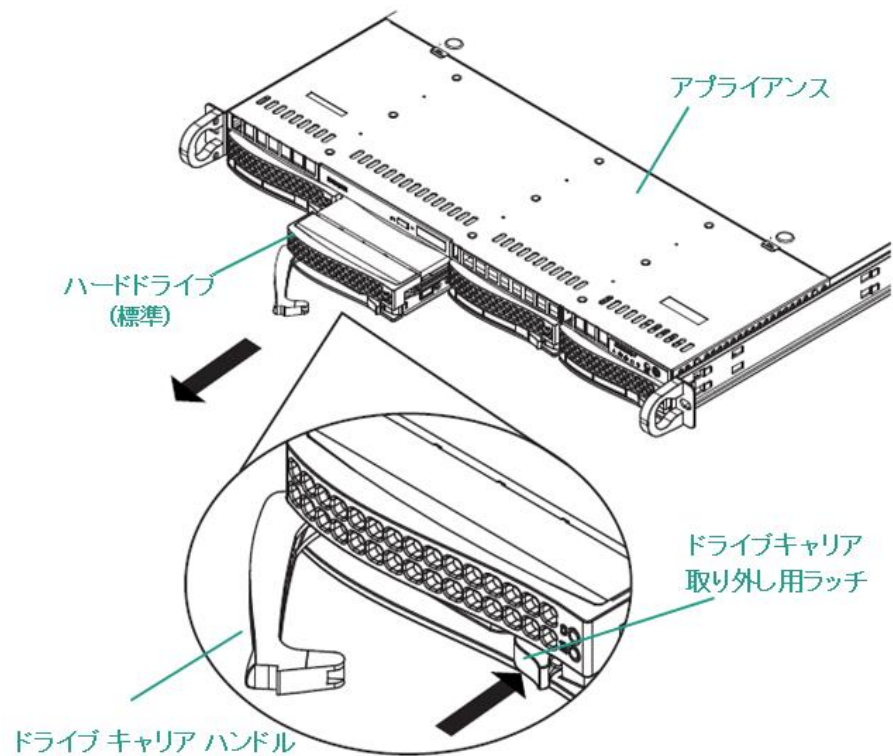
Arcserve UDP アプライアンスには、4 つのハードドライブ キャリアが含まれており、左から右に 0、1、2、3 とラベルが付けられています。一度に複数のハードドライブを交換する場合、各ドライブ キャリアでどのドライブが交換されたかがわかるように、交換したハードドライブにラベルを付ける必要があります。アプライアンスから取り外したハードドライブにもラベルを付け、どのドライブ キャリアによって占有されていたかがわかるようにします。

重要: ハードドライブは静電気に敏感なデバイスであり、損傷しやすいため、ハードドライブを扱う場合は適切な保護対策を講じてください。

- 静電気の放電を防ぐためにリストトラップを着用してください。
- 交換用ハードディスクを帯電防止のパッケージ袋から取り出す前に、接地された物体に触れるようにします。
- ハードドライブを扱う際は常に端のみを持つようにし、底面の露出している部品には一切触れないでください。

次の手順に従ってください:

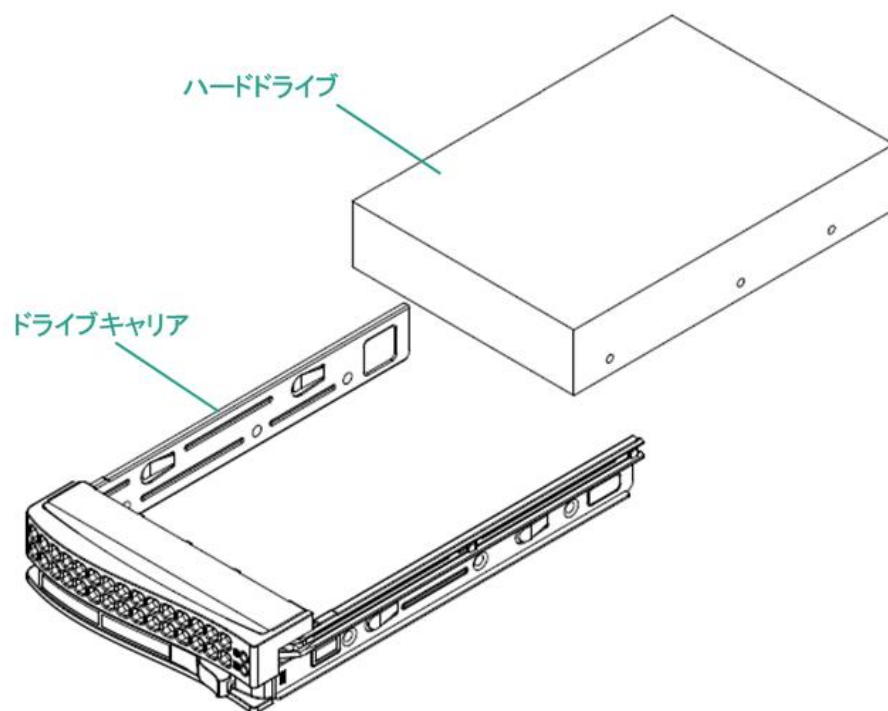
1. ドライブホルダーにアクセスするには、まずフェースプレートを取り外す必要があります。
 - a. フェースプレートのロックを解除します。
 - b. 取り外し用つまみを押してフェースプレートピンを格納します。
 - c. フェースプレートを慎重に取り外します（両手を使用）。
2. ドライブキャリアの取り外し用ラッチを押します。これにより、ドライブキャリアハンドルが展開されます。



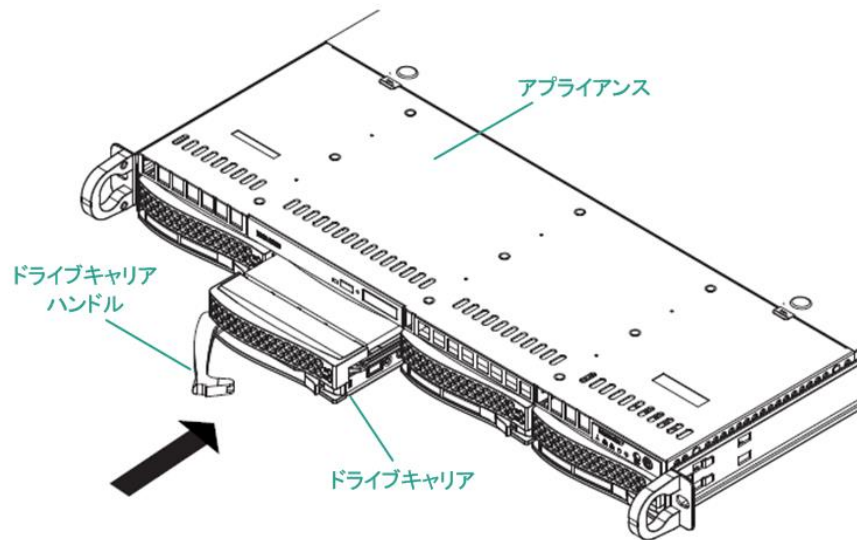
3. ハンドルを使用して、アプライアンスの前面からドライブ キャリアを引き出します。ハード ドライブは、アプライアンスに対する取り付け/取り外しを簡単に行うことができるよう、ドライブ キャリアにマウントされています。これらのキャリアは、ドライブ ベイに適切な換気が行われるようにするのにも役立ちます。

重要: 短時間の場合を除き（ハードドライブの交換など）、ドライブ キャリアが完全に設置されていない状態でアプライアンスを稼働させることはしないでください。

4. 古いハードドライブをドライブ キャリアから取り外し、新しいハードドライブを設置します。その際、交換用ハードドライブが正しい向きであるかに注意し、ラベルが上部、部品が下部にきていることを確認します。



5. ドライブトレイがアプライアンスに完全に設置されるまでスライドし、ドライブキャリアハンドルを閉じて固定します。



6. ドライブを返却する場合は、返却に関する指示を Arcserve サポートから取得します。

付録 A: 安全に関する注意事項

[一般的な安全に関する注意事項 \(P. 86\)](#)
[電気に関する安全のための注意事項 \(P. 88\)](#)
[FCC コンプライアンス \(P. 89\)](#)
[静電気放電 \(ESD\) に関する注意事項 \(P. 90\)](#)

一般的な安全に関する注意事項

以下は、自分自身を損害から保護し、アプライアンスを障害または誤動作から保護するために従う必要がある一般的な安全に関する注意事項です。

- EMI クラス A 機器（商用機器）の場合、本装置は家庭用ではなく、商用機器（A）として EMC（Electromagnetic Compatibility）Registration に登録されています。販売者およびユーザは、この点において注意する必要があります。

A 급 기기 (업무용 방송통신기자재)

이 기기는 업무용 (A 급)으로 전자파적합 기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다

注: この注意事項は韓国にのみ適用されます。詳細については、Arcserve Support（<https://www.arcserve.com/support>）までお問い合わせいただくか、0079885215375（韓国）までお電話ください。

- アプライアンスに同梱されている内容をチェックして破損がないことを確認します。破損の証拠がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください：
<https://www.arcserve.com/support>
- アプライアンスを格納するラックユニットの適切な場所を決定します。これは、よく換気され、ごみなどがない清潔かつ無塵の領域に配置する必要があります。熱、電氣的ノイズ、電磁場が生じる場所は避けてください。
- また、接地された電源コンセントが少なくとも 1 つある場所の近くに配置する必要があります。モデルによっては、アプライアンスに 1 つの電源または冗長電源装置のいずれかが含まれており、2 つの接地されたコンセントが必要になります。
- アプライアンスは、限られた場所でのみ使用するものです。
 - 場所に適用される制限の理由および従うべき注意事項について指示されているユーザまたはサービス担当者からアクセスを得ることができます。
 - アクセスするには、ツールまたはロックおよびキー、セキュリティの別の手段によって与えられ、その場所に責任を持つ担当者によって制御されます。

- アプライアンスの上部のカバーと、アプライアンスから取り外されたすべての部品をテーブルの上に置き、誤って踏まないようにします。
- アプライアンスを使用して作業する際は、ネクタイや袖のボタンを留めていないシャツなどゆるやかな服装は避けてください。そのような服装は、電子回路に触れたり、冷却ファンに巻き込まれたりする可能性があります。
- 宝飾品や金属のものは、金属導体であり、プリント基板（PCB）または電流が流れている場所に接触すると、ショートしたり損傷を生じさせたりする可能性があるため、身に付けしないでください。
- アプライアンスの内部にアクセスし、すべての接続が行われたことを確認したら、アプライアンスを閉じて、留めねじでラックユニットに固定します。

電気に関する安全のための注意事項

以下は、自分自身を損害から保護し、アプライアンスを障害または誤動作から保護するために従う必要がある電気に関する安全のための注意事項です。

- アプライアンス上の電源オン/オフのスイッチの場所と、部屋の緊急電源遮断スイッチ、切断スイッチ、電源コンセントの場所を確認します。電氣的事故が発生した場合は、アプライアンスから電力を素早く切断することができます。
- 高電圧の部品を扱う場合は、1人で作業しないでください。
- システムの主要部品（サーバボード、メモリ モジュール、DVD-ROM、フロッピードライブなど）を取り外したり配置したりする場合は、必ずアプライアンスから電力を切断する必要があります（ホットスワップ可能なドライブには必要ありません）。電力を切断する場合は、最初にオペレーティングシステムでアプライアンスの電源を切り、次にアプライアンスのすべての電源モジュールから電源コードのプラグを抜きます。
- 露出している電子回路の周りで作業する場合、電源切断の制御に慣れている別の担当者が待機し、必要に応じて電源スイッチをオフにする必要があります。
- 電源がオンになっている電子機器を扱う場合は、片手のみを使用します。これは、完全に閉じられた回路を防ぐためです。完全な回路は電気ショックを引き起こす可能性があります。金属のツールを使用する場合、電子部品や回路基板に接触すると簡単に損傷を与える可能性があるため、特に注意します。
- 感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。代わりに、電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。
- 電源装置の電源コードには、アース端子付きプラグが含まれている必要があります。アース接地用コンセントに接続する必要があります。
- サーバボードのバッテリー：注意： オンボードバッテリーの上下を逆に設置すると、極性が逆になり、爆発の危険があります。このバッテリーは、メーカーによって推奨されるのと同じ種類または同等の種類でのみ置き換える必要があります。メーカーの指示に従って使用済みバッテリーを破棄します。

- DVD-ROM レーザー:注意 - このサーバには、DVD-ROM ドライブが装備されている場合があります。レーザー ビームへの直接の露出および有害な放射線被ばくを回避するため、筐体を開いたり、通常とは異なる方法でユニットを使用したりしないでください。

FCC コンプライアンス

このアプライアンスは、FCC 規則の Part 15 に準拠しています。以下の条件に従って運用される必要があります。

- このアプライアンスは、有害な干渉を引き起こしません
- このアプライアンスは、受け取った干渉を受け入れる必要があります（意図しない操作を発生させる可能性がある干渉を含む）

注: この機器はテストされ、クラス A のデジタル機器の制限に従っており、FCC 規則の Part 15 に準拠していることが検証されています。これらの制限は、機器が商用目的で運用された場合に有害な干渉に対して適切な保護を提供するように設計されています。この機器は、電磁波を発生および利用し、外部に放射することがあり、正式な手順に従って設置および使用されない場合は、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地域でこの機器を稼働させると、有害な干渉が発生する可能性があります。ユーザは自らの費用負担で干渉を是正する必要があります。

静電気放電(ESD)に関する注意事項

静電気放電 (ESD) は、異なる電荷の 2 つの物体が互いに接触することによって生じます。静電気は、この電荷の違いを中和しようとして発生し、電子部品やプリント回路基板に損傷を与える可能性があります。ESD に敏感なデバイスには、サーバボード、マザーボード、PCIe カード、ドライブ、プロセッサ、メモリ カードなどがあり、特殊な扱いが必要となります。接触する物体の電荷の違いを中和するための努力として、接触前に以下の注意事項に従い、機器を ESD から保護します。

- 電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。
- 静電気の放電を防ぐように設計されている接地されたリストストラップを使用します。
- 帯電または放電 (ESD) を予防する洋服または手袋を使用します。
- すべての部品およびプリント回路基板 (PCB) は、使用するまで静電気防止バッグに入れておきます。
- 基盤を静電気防止バッグから取り出す前に、接地されたメタル オブジェクトに触れます。
- 部品または PCB が洋服に触れないようにします。触れた場合は、リストストラップを装着していても静電気を帯びる可能性があります。
- ボードを扱う際は、その端のみに触れるようにします。その部品、周辺チップ、メモリ モジュール、接点に触れないでください。
- チップまたはモジュールを扱う場合、そのピンに触れないようにします。
- サーバボードおよび周辺機器を使用しない場合は静電気防止バッグに戻します。
- 接地目的のため、アプライアンスが、電源、ケース、マウントファスナー、サーバボード間で優れた伝導性を提供することを確認します。

付録 B: IPMI パスワードの変更

[IPMI パスワードを変更する方法](#) (P. 92)

IPMI パスワードを変更する方法

IPMI パスワードを変更する前に、BIOS セットアップ画面にアクセスして IP アドレスを取得する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. システムを起動すると、ブート画面が表示されます。この画面で、Delete キーを押します。BIOS セットアップ画面が表示されます。

注: 移動するには、矢印キーを使用し、Enter キーを押します。前の画面に戻るには、Escape キーを押します。

2. BIOS メイン画面の上部で IPMI タブを選択します。

注: デフォルトでは、環境設定アドレスソースは DHCP に設定されています。



3. IP アドレスが正しいことを確認します。サーバが同じネットワーク上にある場合のみ、Web ブラウザを使用して、IPMI インターフェースに接続することができます。

- IPMI ポート経由でリモート サーバに接続した後、IPMI ログイン画面が表示されます。

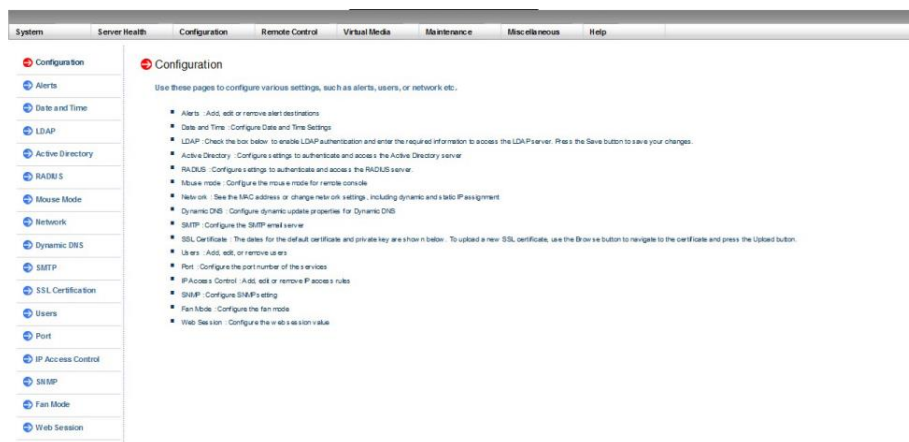
[ユーザ名] フィールドにユーザ名を入力します。（デフォルトは ADMIN）

[パスワード] フィールドにパスワードを入力します。（デフォルトは ARCADMIN）

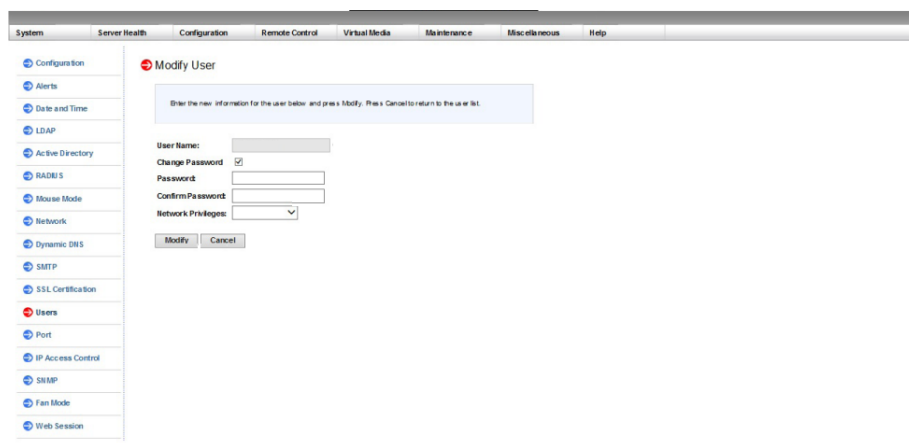
ホーム ページが表示されます（IPMI メイン画面）。



9. 上部バーから「環境設定」オプションをクリックします。「環境設定」画面が表示されます。



10. 「環境設定」サイドバーで「ユーザ」オプションをクリックします。
11. ユーザ（ADMIN）をユーザリストから選択します。
12. 「ユーザの変更」をクリックすると、「ユーザの変更」画面が表示されます。



13. ユーザ名を入力します。（ADMIN）
14. 「パスワードの変更」チェックボックスを選択してパスワードを変更します。パスワードのフィールドが有効になります。
15. 新しいパスワードを入力し、確認します。

16. 「変更」をクリックすると、変更が保存されます。IPMI パスワードが変更されます。

付録 C: トラブルシューティング

[Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない \(P. 98\)](#)

[UDP アプライアンスを別のアプライアンスからバックアップすると重複ノードが報告される \(P. 100\)](#)

[静的 IP アドレスがアプライアンス サーバに設定されている場合、Linux ネットワーク サービスを再起動後に Linux バックアップ サーバでネットワーク DNS サフィックスを取得できない \(P. 102\)](#)

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない

症状

Linux バックアップ サーバに Arcserve UDP コンソールから接続しようとする、正常に失敗し、赤色のマークが表示されます。

解決方法

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない場合、接続のトラブルシューティングを行って問題を特定することができます。

接続の問題のトラブルシューティングを行う方法

1. Hyper-V マネージャを起動し、Linux バックアップ サーバの仮想マシンに接続してログインします。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
service network restart
```

3. Linux バックアップ サーバに割り当てられた IP アドレスが 192.168.10.2 であることを確認します。確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
ifconfig
```

4. IP アドレスが 192.168.10.2 である場合は、Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。
5. IP アドレスが 192.168.10.2 でない場合は、「DHCP Microsoft 管理コンソール（MMC）からのトラブルシューティング」の手順に従います。

DHCP Microsoft 管理コンソール(MMC)からのトラブルシューティング

重要: DHCP サーバ サービスが、アプライアンス上で適切に実行されていることを確認します。

1. [サーバ マネージャ] - [ツール] - [DHCP] から DHCP MMC を起動します。
2. Linux サーバ ノード、IPV4、スコープを展開し、192.168.10.0 という名前のスコープがその下に存在することを確認します。
3. [アドレスのリース] を展開し、他のリース レコードの存在を削除します。
4. Linux バックアップ サーバにログインし、以下のコマンドを実行します。

```
service network restart
```

5. Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバ ノードを更新します。

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できるようになりました。

UDP アプライアンスを別のアプライアンスからバックアップすると重複ノードが報告される

症状

アプライアンス A からアプライアンス B をバックアップすると、アクティビティ ログに以下の警告メッセージが表示されます。

「次のノードが重複しています: *Appliance_B*、*Appliance_A*」その結果、これらは同じエージェント識別子を持ち、予期しない結果が生じる可能性があります。この重複ノードの問題は、異なるノード名 (DNS 名または IP アドレスなど) を使用してノードが追加されたか、1 つのノードを複製することによっていくつかのマシンが設定されている場合に発生することがあります。

ケース 1: アプライアンス B がアプライアンス A UDP コンソールに RPS として追加した場合。

例: アプライアンス B から、UDP ウィザードを使用してアプライアンスを設定し、「このアプライアンスは、別の Arcserve UDP コンソールによって管理される Arcserve UDP 復旧ポイントサーバのインスタンスとして機能します」を選択できます。

解決方法

1. アプライアンス B にログインし、次の場所にあるノード ID のレジストリ キーを削除します:
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥CA¥ARCserve Unified Data Protection¥Engine]。

2. Arcserve UDP エージェント サービスをアプライアンス B から再起動します。
3. UDP コンソールから、[ノード] - [すべてのノード] ペインに移動し、アプライアンス B ノードを更新します。
4. [復旧ポイント サーバ] ペインに移動し、アプライアンス B ノードを更新します。
5. アプライアンス B のデータ ストアから参照されているプランを削除します。
6. アプライアンス B から RPS データ ストアを削除します。
7. 手順 6 で削除されたデータ ストアをアプライアンス B の RPS にインポートします。その際は元のバックアップ先を指定します。
8. 手順 5 で削除されたプランを再作成します。

ケース 2: アプライアンス B が、エージェント ノードとしてのみ、アプライアンス A UDP コンソールに追加された場合。

たとえば、プランは、アプライアンス A の UDP コンソールでエージェント ベースのバックアップ タスクによってアプライアンス B を保護します。

1. アプライアンス B にログインし、次の場所にあるノード ID のレジストリ キーを削除します：
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥CA¥ARCserve Unified Data Protection¥Engine]。
2. Arcserve UDP エージェント サービスをアプライアンス B から再起動します。
3. UDP コンソールから、[ノード] - [すべてのノード] ペインに移動し、アプライアンス B からノードを更新します。

静的 IP アドレスがアプライアンス サーバに設定されている場合、Linux ネットワーク サービスを再起動後に Linux バックアップ サーバでネットワーク DNS サフィックスを取得できない

静的 IP アドレスがアプライアンス サーバに設定されている場合、Linux ネットワーク サービスを再起動後に Linux バックアップ サーバでネットワーク DNS サフィックスを取得できない

静的 IP アドレスをアプライアンス サーバに設定すると、Linux バックアップ サーバは、ネットワーク サービスを再起動した後にネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できません。この問題は、Linux バックアップ サーバと UDP コンソールの間の通信の問題につながります。通信の問題が発生したら、この Linux バックアップ サーバを使用して Linux ノードを保護することはできません。

症状

Linux バックアップ サーバのステータスは、UDP コンソールで、切断された状態のままになります。ノードの更新で Linux バックアップ サーバを正常に更新することはできず、黄色の警告アイコンが緑色に変更されません。これは、静的 IP アドレスをアプライアンス サーバに設定し、それにより Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できない場合に発生します。

解決方法

この問題を解決するには、Linux マシンで `file/etc/resolv.cfg` を直接修正し、正しい DNS サフィックスを追加します。